

2025



Daigas
Group





目 次

イントロダクション

目次	1
----	---

Daigasグループを知る

トップメッセージ	2
Daigasグループの概要	3
Daigasグループデータ	4
Daigasグループの企業理念	6
Daigasグループの成長の歴史	7

価値創造ストーリー

中期経営計画2026	9
競争力のある資本	10
重点戦略_ミライ価値の共創	
【特集】Daigasグループエネルギー・トランジション2050	11
お客さまと社会のレジリエンス向上	14
先進的で多様なソリューションの共創	16
重点戦略_従業員の輝き向上	
従業員と企業の価値が相互に高まる環境づくり	17
重点戦略_経営基盤の進化	
ROIC経営の推進	18
事業紹介	19

事業戦略

セグメント別事業戦略

国内エネルギー事業	20
国内のエネルギーインフラ	23
海外エネルギー事業	24
海外のエネルギーインフラ	26
ライフ&ビジネス ソリューション(LBS)事業	27

コーポレートデータ

大阪ガス(株)所在地/ Daigasグループ主要会社一覧	29
---------------------------------	----

ナビゲーションボタンの説明



目次へ
戻ります



レポート内の
該当ページへ
移動します



外部サイトへ
移動します



トップメッセージ

「中期経営計画2026」の目標達成に向け さらなる飛躍を目指します

代表取締役社長 社長執行役員 藤原 正隆

2025年度は、大阪ガスが1905年（明治38年）の創業から120年を迎える節目の年です。創業以来、当社グループは、都市ガスの用途を照明から厨房や暖房、給湯、空調へと変え、さらには発電にまで広げ、マーケットを家庭用から業務用・産業用に拡大しました。事業フィールドも、関西だけでなく全国・海外へと広げ、時代の変化に応じて成長・進化してまいりました。これからも、新しいことへの「挑戦と進化」を表す「Dynamic Daigas Group」をキャッチコピーとして、お客さまに誠心誠意向き合い、時代や社会の変化にダイナミックに挑戦してまいります。



120周年記念ロゴ

その一方、当社グループの最大の使命、企業グループの根幹は安全・安心の確保とエネルギーの安定供給であることを忘れてはなりません。いくら先進的な取り組みをしようとも、保安・安全がおろそかになると、会社の屋台骨が揺らぐこととなります。1995年の阪神・淡路大震災から30年が経ちましたが、設備投資などのハード面と、業務フローの改善や教育・訓練といったソフト面、これら両面での保安対策を継続・進化させてまいります。

こうした取り組みを着実に進め、「中期経営計画2026」の目標達成に向け、「今日の安心をまもり、未来の日常をつくる」という志を胸に、2025年度もさらなる飛躍を目指してまいります。





Daigasグループの概要

■ 大阪ガス株式会社の概況 (2025年3月31日時点)

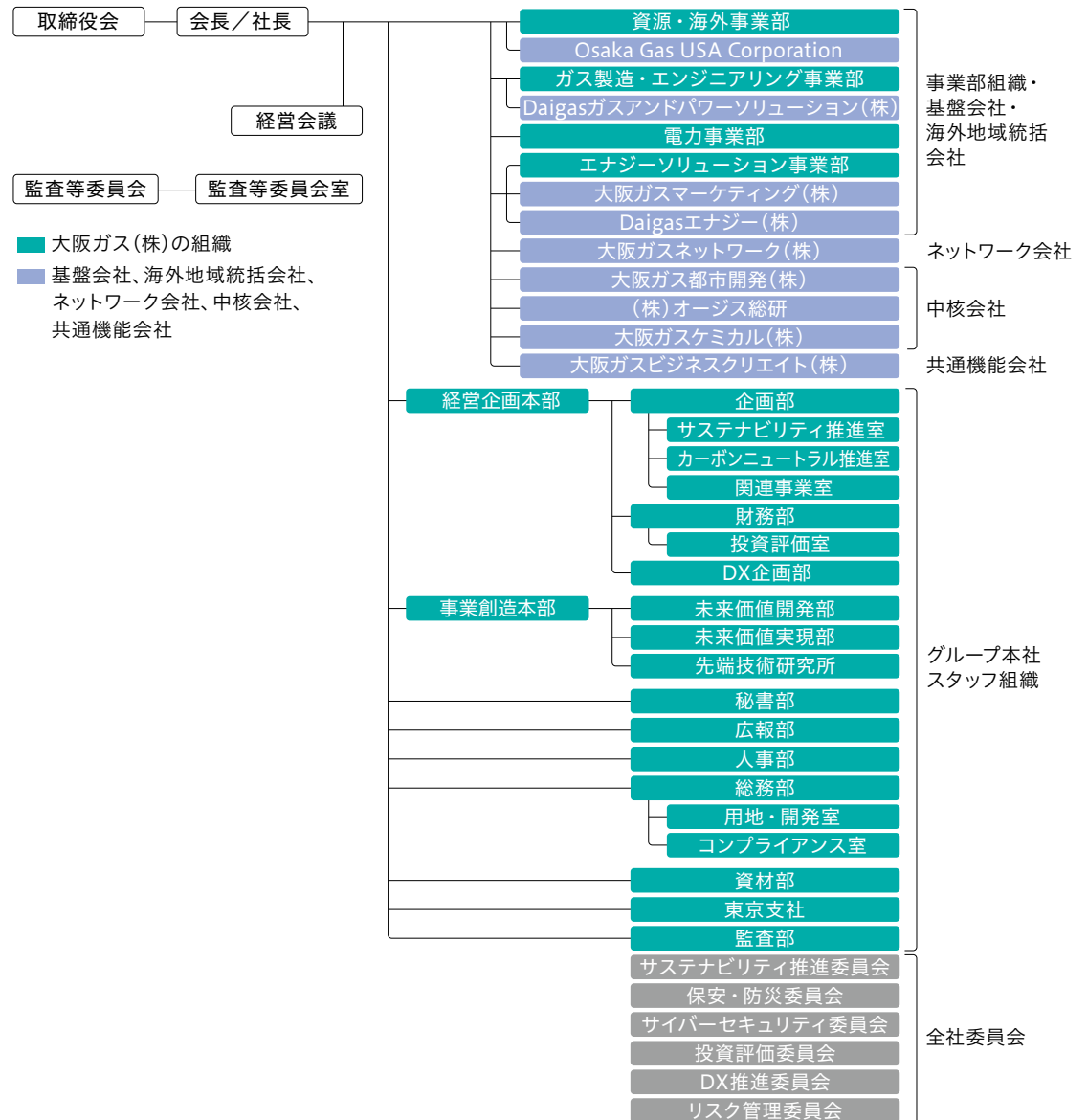
本 社	大阪市中央区平野町四丁目1番2号
設 立	1897年4月10日
創 業	1905年10月19日
売 上 高 ^{※1}	【個別】1兆5,147億円 【連結】2兆690億円
経 常 利 益 ^{※1}	【個別】543億円 【連結】1,896億円
当期純利益 ^{※1}	【個別】525億円 【連結】1,344億円 ^{※2}
資 本 金	132,166百万円
従 業 員 数	【個別】1,283人 (他社への出向者を除き、当社への出向者を含む 就業人員数) 【連結】21,404人 (当社グループ外への出向者を除き、当社グループ 外から当社グループへの出向者を含む就業人員数)

※1 2025年3月期 ※2 親会社株主に帰属する当期純利益

■ Daigasグループの主要な事業内容 (2025年3月31日時点)

セグメント	主な事業内容
国内エネルギー	都市ガス製造・供給および販売、ガス機器販売、 ガス配管工事、LNG販売、LNG輸送、LPG販売、 産業ガス販売、発電および電気の販売
海外エネルギー	天然ガス等に関する開発・投資、 エネルギー供給
ライフ&ビジネス ソリューション (LBS)	不動産の開発および賃貸、情報処理サービス、 ファイン材料および炭素材製品の販売

■ Daigasグループ経営体制 (2025年4月1日時点)





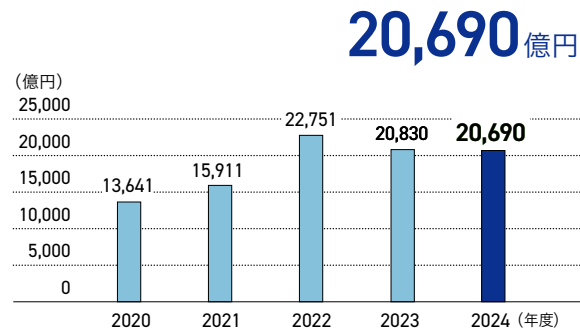
Daigasグループデータ

財務情報について詳しくは
ウェブサイトをご覧ください

ファクトブック

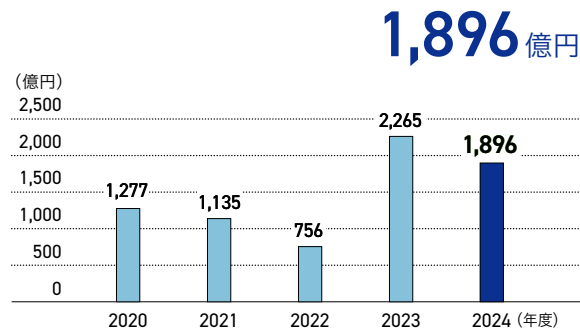
売上高 2025年3月期

2024年度の売上高は、国内エネルギー事業で電力販売量が増加したものの、LNG販売量が減少したことや、原料費調整制度に基づきガス販売単価が低めに推移したことなどにより、前年度より減収となりました。



経常利益^{※1} 2025年3月期

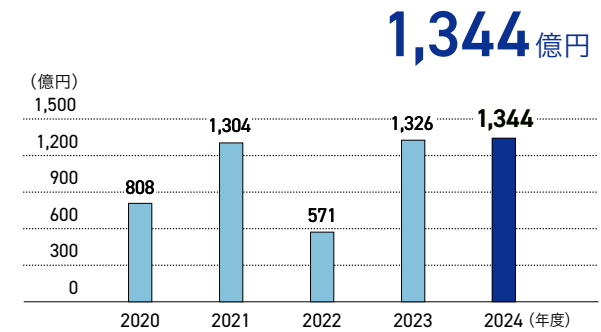
2024年度の経常利益は、国内エネルギー事業で、原料価格等の変動が販売単価に反映されるまでのタイムラグによる増益影響が縮小したことなどにより、前年度より減益となりました。



※1 タイムラグ差益を除く2024年度実績は1,853億円

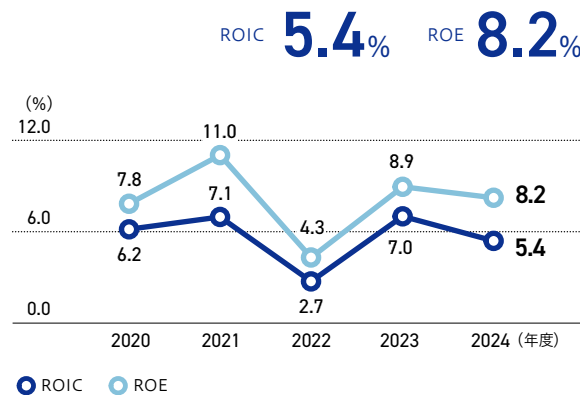
親会社株主に帰属する当期純利益 2025年3月期

2024年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却による特別利益などにより、前年度より増益となりました。



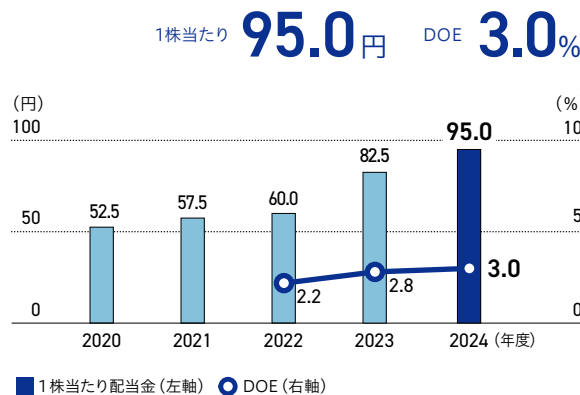
ROIC / ROE 2025年3月期

ROIC、ROEは、電力事業の一過性の増益要因等もありますが、前年度に続き順調に進捗しており、着実に向上を図っています。



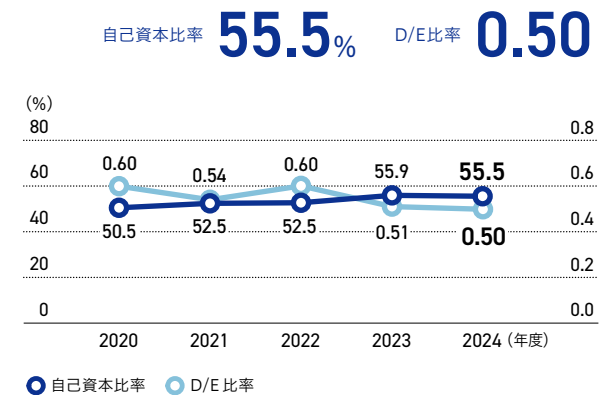
1株当たり配当金 / DOE 2025年3月期

1株当たり配当金は、累進配当と株主資本配当率(DOE)3.0%の株主還元方針に基づき、増配しています。



自己資本比率^{※2} / D/E比率^{※2} 2025年3月末時点

財務健全性指標である自己資本比率・D/E比率は、中期経営計画2026で示した「自己資本比率45%以上、D/E比率0.8以下」を確保しています。



※2 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

2022年度から「連結財務諸表の用語、様式および作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づき作成。2021年度の数値は遡及適用した後の数値。

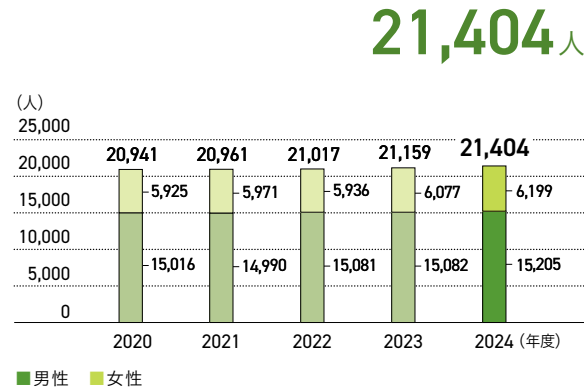


Daigasグループデータ

非財務情報について詳しくは
ウェブサイトをご覧ください

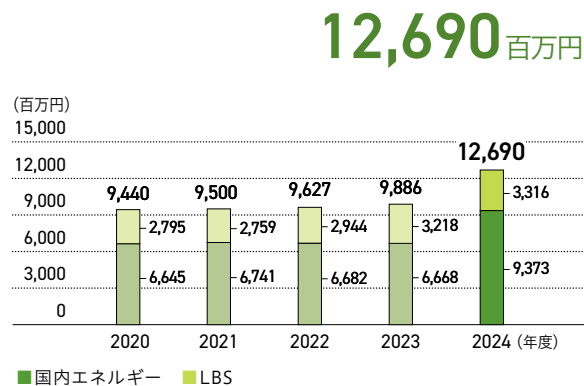
サステナビリティサイト

グループ従業員数 2025年3月期



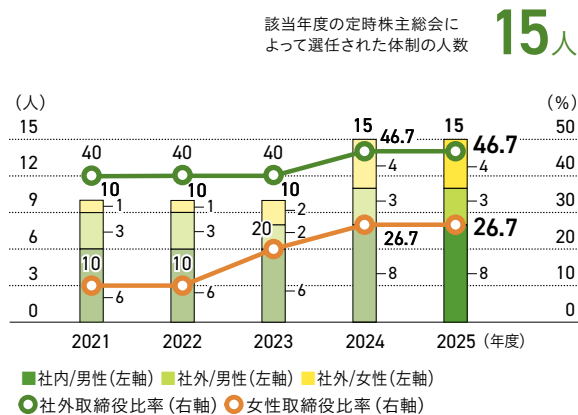
研究開発費 2025年3月期

e-メタンをはじめとしたカーボンニュートラル化に向けた研究開発に注力しました。



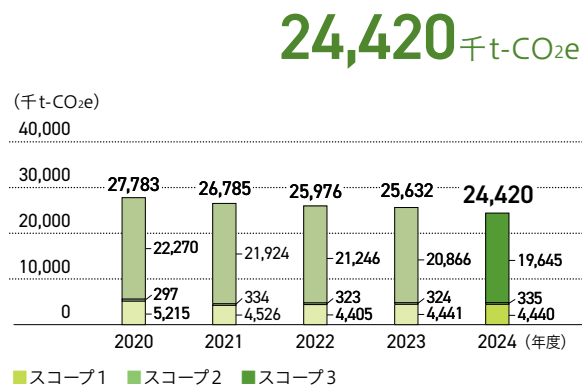
大阪ガス取締役人数 2025年3月期

2024年度から監査等委員会設置会社へ移行し、取締役会等による監督機能を強化しています。



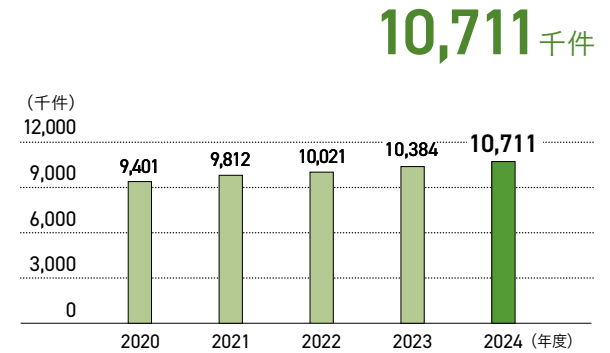
グループ温室効果ガス排出量 2025年3月期

当社グループは2050年カーボンニュートラル実現を掲げています。
また、社会へのCO₂排出削減は、海外での天然ガス発電や国内再生可能エネルギー発電等の稼働により、2030年度の目標に向け順調に進捗しています。

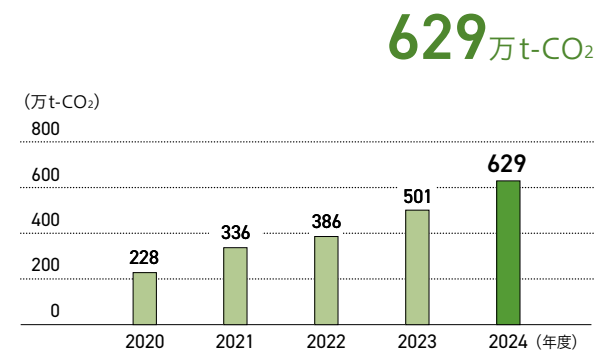


お客さまアカウント数 2025年3月期

他社との協業、新規サービス開発等により、2030年度の目標に向け順調に進捗しています。



CO₂排出削減貢献量 2025年3月期

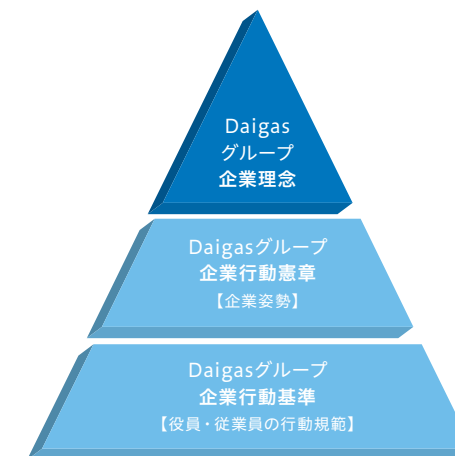




Daigasグループの企業理念

Daigasグループの理念体系

Daigasグループは、「Daigasグループ企業理念」「Daigasグループ企業行動憲章」「Daigasグループ企業行動基準」を設定しています。「Daigasグループ企業理念」は、目指す姿、宣言、社是からなるものです。暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループを目指し、「お客さま価値」の創造を第一に、「社会価値」「株主さま価値」「従業員価値」の創造につなげ、4つの価値創造を実現することが、当社グループの社会的責任を全うすることと考えています。また、企業姿勢を示すものとして「Daigasグループ企業行動憲章」、役員・従業員が守るべき具体的な行動規範を示すものとして「Daigasグループ企業行動基準」を定めており、これらに基づいて事業活動に取り組んでいます。



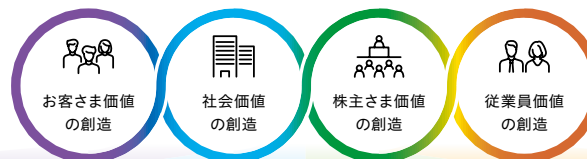
Daigasグループ企業理念 ▶ Daigasグループ企業理念

－Daigasグループの目指す姿－

暮らしとビジネスの“さらなる進化”の
お役に立つ企業グループ

－Daigasグループの宣言－

Daigasグループは、4つの価値創造を実現します



－Daigasグループ社是－

サービス第一

■ 価値創造の実現

お客さま価値の創造

様々なフィールドでお客さまの快適・便利・安心の向上に資するサービスをともに創り上げ、お客さまの期待に応え続けます。

- エネルギー事業における新商品・サービスの開発・提供の推進
- エネルギー製造・供給における重大事故件数ゼロの継続
- 不動産、情報通信、新素材事業への展開
- DX等による新規サービス創出、働き手不足の解消に貢献
- お客さまアカウント数1,071万件(2024年度)
- お客さま満足度[※]13年連続90%以上(2024年度)

※開栓、機器修理、機器販売(施工付き)、定期保安巡回(ガス設備調査)、電話受付(お客さまセンター)の5つの業務に対する満足度調査の結果

社会価値の創造

事業活動においては公正と透明性の確保に努め、社会の持続的発展と地球環境の改善に貢献します。

- エネルギーの安定・安全供給の維持継続
- 地震対策の推進
ポリエチレン(PE)管延長18,600km(2024年度)
- 天然ガスの高度利用、ガス体エネルギーのカーボンニュートラル化、再生可能エネルギー普及によるカーボンニュートラル社会への貢献
CO₂排出削減貢献量 629万トン(2024年度)
- 地域との共創活動の推進
- サプライヤーとの公正・透明性のある事業推進への取り組み

株主さま価値の創造

健全な財務基盤のもと、長期的かつ安定的に成長し、企業価値の最大化を図ります。

- ROIC経営の導入・深化
- 利益成長に応じた株主還元
- 資本市場との対話による企業理解の促進
- トランジションファイナンスの実施
資金調達 1,500億円超(2022-2024年度)

従業員価値の創造

従業員の様々な個性を尊重し、やりがいを持って仕事に取り組み成長するためのサポートを行います。

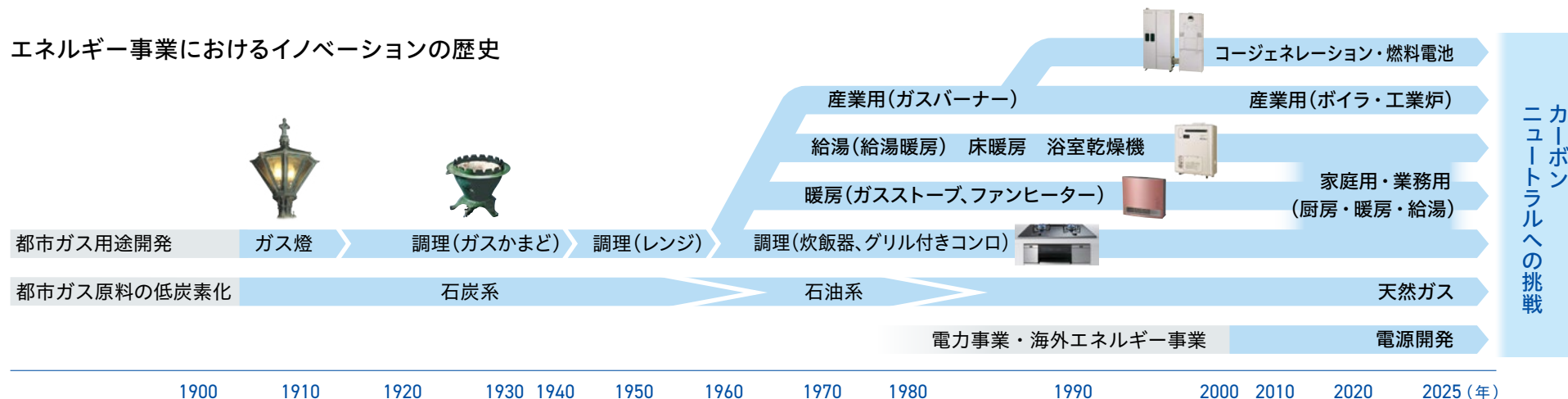
- DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の推進
女性取締役比率 26.7%(2024年度)
- 能力開発プログラムの充実と誰もがチャレンジできる制度を整備
- 経営基盤強化に向けた共通研修時間
14.1時間/人(2024年度)
- 従業員エンゲージメント
適正水準を維持
会社に対する現時点の満足度を表す「総合満足度」を総合評価指標として確認(2024年度)



Daigasグループの成長の歴史

Daigasグループは1905年(明治38年)にガスの供給を開始しました。それから120年、ガス燈を灯すことから始まったガス事業は、社会や環境変化の中で幾多の困難にぶつかりながらも、調理、暖房、給湯、発電まで用途を広げてきました。また、エネルギー事業で培ったお客さまや地域とのつながりを源泉に、事業領域を拡大し、多様な商品・サービス・ソリューションを提供する企業グループに発展してきました。

エネルギー事業におけるイノベーションの歴史



社会的背景とグループの取り組み

社会課題・ニーズ

地域の 安全性 向上

石油ランプからガス燈へ

当時、電灯はまだ高価で、普及していた石油ランプはしばしば火事の原因となっており、都市部の社会課題の一つでした。

ガス供給 開始

ガス燈の普及に努める

会社設立理由に市民への安全で低廉なガスの供給を掲げ、ガス燈の普及に努めました。

ライフ スタイルの 変化

ガスによって変わる生活

様々な生活様式や人々の慣習も変化しつつあり、女性の社会進出も始まりました。

新しい 暮らしの 提案

ご家庭の厨房へのガス普及は従来の竈調理における家事の負担を大幅に軽減させました。

エネルギー 需要の 増加

人口増加・戦後復興

エネルギー需要の増加や急激な都市化への対応が必要となりました。

LNGの 導入

天然ガス転換は膨大な先行投資を伴う長期プロジェクトでしたが、供給安定性向上や環境負荷軽減等が図られました。

持続可能な 社会の 実現

環境への関心の高まり

SDGs採択、パリ協定発効、TCFD提言発表等、全世界が取り組むべき喫緊の課題として挙げられています。

先進的な 商品の 開発

先進的な機器・システムや技術開発を行い、お客さまとともに2050年のカーボンニュートラル実現を目指します。

Daigasグループの価値共創



グループ事業における成長の歴史





中期経営計画2026

Connecting Ambitious Dreams

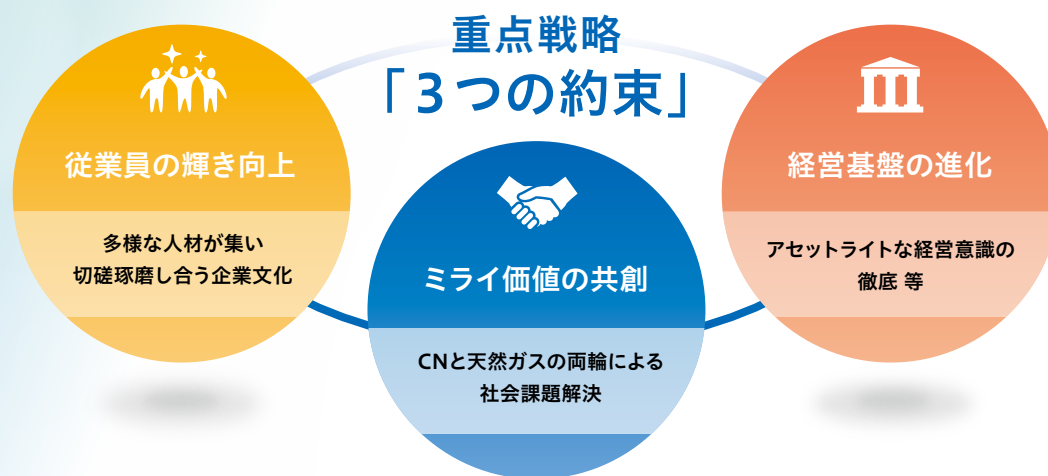
2030年は、2050年のカーボンニュートラル(以下、CN)社会実現に向けた動きが一層加速し始める転換ポイントとなります。本中期期間である2024年度から2026年度は、安定供給の使命とトランジション期への貢献に取り組むとともに、2030年のCN潮流の加速に向けた基盤構築を両輪で進める「志を体現し、未来に橋を架ける(=Connecting Ambitious Dreams)」期間と位置づけます。

これからの時代を歩むDaigasグループの志
今日の安心をまもり、未来の日常をつくる

今日の安心をまもり
いま提供する商品や
サービスの安定供給・
普及拡大・高度利用の実現

未来の日常をつくる
環境変化に対応した、
いまはまだ存在しない
ソリューションの創造・実装

Daigasグループの企業理念・志の実現



主な 非財務 目標

- 社会全体へのCO₂排出削減貢献量 **700**万トン
- DX中核スタッフ人材の確保 **300**人
- お客さまアカウント数 **1,090**万件
- 女性取締役比率 **25%**以上

特定した マテリアリティ

Daigasグループは、「中期経営計画2026」策定時に、事業環境の変化と新たな課題を認識し、マテリアリティの見直しを行いました。

中長期目標(2030年度)

経常利益	2,000 億円程度
ROIC	6%程度
ROE	10%程度

2030年代
早期段階

中期経営計画目標(2026年度)

ROIC	5.0%程度
ROE	8.0%程度
自己資本比率	45%以上
D/E比率	0.8以下

成長投資(2024年～2026年度累計)

成長投資総額(3カ年) (うちカーボンニュートラル領域への投資)	5,600億円 (1,000億円)
国内エネルギー	1,850億円
海外エネルギー	2,250億円
LBS	1,500億円

株主還元

累進配当

株主資本配当率
(DOE) 3.0%

機動的な追加
還元策の実施



競争力のある資本

Daigasグループが保有する競争力のある資本を戦略的に強化し、持続的な成長を目指します。



財務資本

持続的な事業成長を目指して、規律ある財務戦略に支えられた強固で健全な財務基盤を維持しつつ、企業価値の最大化を図ります。



製造資本

エネルギー供給のための様々な設備は、当社グループにとって欠かすことのできない資本です。トランジション期の成長領域として、天然ガス発電所やシェールガス開発等の製造資本を強化していきます。



知的資本

エネルギー事業で培ったガス合成・触媒に関する技術や、LNG受け入れ基地等の設計・建設技術など、様々な技術開発の知見を保有しています。これらの知的財産を活用するとともに、e-メタンの導入等、カーボンニュートラルに資する技術開発を強化していきます。



人的資本

中長期的な企業価値向上のためには非連続なイノベーションを生み出すことが重要であり、その原動力となるのは多様な個人による共創と考えています。従業員一人ひとりのエンゲージメント向上に加え、人材の確保・育成を強化し、持続的な成長を目指します。



社会資本

地域に根差した事業を展開する当社グループは、幅広い分野のステークホルダーと接点を持つ機会を有し、信頼関係を構築しています。ステークホルダーとの連携によるサービス創出を強化し、事業の持続的な成長を目指します。



自然資本

天然ガスは限りある資源と認識し、効率・効果的な利用に努めるとともにエネルギーの安定供給、保安の確保のため、エネルギー源の多様化を進めています。天然ガスと再生可能エネルギーの有効活用により、“S+3E”の実現を目指します。

※S+3E: 安全性 (Safety)、安定供給 (Energy security)、経済効率性 (Economic efficiency)、環境性 (Environment)

2025年3月末時点

[財務健全性※]

自己資本比率 **55.5%**

D/E比率 **0.50** 倍

※発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

設備投資額(2024年度実績)

2,217 億円

ガス製造所 **2** カ所

中央指令室※

※24時間365日の安定供給・保安確保

特許保有件数(国内)

2,740 件

研究開発費(2024年度実績)

126.9 億円

セグメントごとの開発費
(国内エネルギー: 93.7億円
LBS: 33.2億円)

グループ従業員数

21,404 人

ワークエンゲージメント
スコア※ **52.2**

※アドバンテッジタフネス調査を利用している企業のワークエンゲージメント結果における偏差値

サービス
チェーン数 約 **200** 拠点

低圧電気
供給件数 約 **192** 万件

ガス
供給件数 約 **511** 万件

ステークホルダーの
皆さまとの共創関係

LNG取扱量(2024年度実績)

約 **1,120** 万トン

再エネ普及貢献量
370 万kW

「中期経営計画2026」目標

財務健全性に
配慮しながら
財務レバレッジを拡大

ROIC 5.0%程度
ROE 8.0%程度
自己資本比率 45%以上
D/E比率 0.8以下
(2026年度)

📖 P.18

姫路天然ガス発電所の
建設等の電力事業、
米国のシェールガス
開発の加速等

成長投資のうち、
重点成長領域への投資
約4,600億円
(2024年度-2026年度)

📖 P.9、P.22、P.25

メタネーション
技術開発の推進

成長投資のうち、
カーボンニュートラル領域
への投資 約1,000億円
(2024年度-2026年度)

📖 P.9

人材の確保・育成の
強化

📖 P.17

ステークホルダーとの
連携による新ビジネス・
新サービスの創出

📖 P.16

再生可能エネルギーの
普及に向けた貢献

再エネ普及貢献量
400万kW
(2026年度)

📖 P.22

さらなる強化の方向性



重点戦略__ミライ価値の共創

特集

Daigasグループエネルギーtransition2050

Daigasグループは、これまで「カーボンニュートラルビジョン(2021年1月)」の公表を通じて2050年のカーボンニュートラル(以下、CN)実現への挑戦を表明し、「エネルギーtransition2030(2023年3月)」では、2030年までのエネルギーtransitionに向けた考え方や具体的な方策を示してきました。

その後、活動を深化させる中、ロシアによるウクライナ侵攻等の国際的な地政学リスクが高まっており、エネルギーのCN化と安定供給の両立が一層求められるようになっている状況も踏まえ、2050年のCN実現に向けたエネルギーtransitionのロードマップをより明確にした「エネルギーtransition2050」を2025年2月に策定しました。

「エネルギーtransition2050」では、「CN実現に向けた全体像」「エネルギー供給の低・脱炭素化に向けた取り組み」「お客さまへお届けするソリューション」をまとめており、当社グループの考え方や取り組み、お客さまとの共創について示しています。

「エネルギー供給に関する課題とDaigasグループの方針」

エネルギー供給はS+3E^{※1}を基本的な考え方としており、低・脱炭素化へのtransitionに向けて、3つのEのバランスが重要です。

ただし環境に優しいエネルギーに切り替えると、現時点ではコスト増加を招いたり、サプライチェーンが確立されていない中では供給安定性が低下するなど、こうした関係を「3Eのトリレンマ」と呼んでおり、Daigasグループはこの3つのEを同時に満たすことに挑戦していきます。特に、日本は資源に恵まれず、エネルギー自給率は12.6%と低いため、海外からのエネルギー輸入に依存しています。これにより、国際情勢や世界のエネルギー政策の変化にも注視する必要があります。

こうした背景を踏まえ、当社グループは、安全性を大前提に、供給安定性を最も重要視しつつ、環境性・経済性の様々な選択肢をお客さまにご提案することを基本方針としています。



※1: S+3E=安全性(Safety)、安定供給(Energy Security)、経済効率性(Economic Efficiency)、環境性(Environment)

※2: 2022年度 エネルギー需給実績(確報)

📄 カーボンニュートラルビジョン
(2021年1月公表)

📄 エネルギーtransition2030
(2023年3月公表)

📄 エネルギーtransition2050
(2025年2月公表)

■ 国の方針

日本のエネルギー政策では、S+3Eの達成が重要と考えられています。2025年2月に閣議決定された第7次エネルギー基本計画では、2040年に向けた新たな政策の方向性が示され、国の基本方針であるS+3Eにバランスのとれた天然ガスを重視することや、安全を前提としたエネルギーの安定供給を最優先する方針が示されました。

エネルギー供給で考慮すべきリスク

- 国際情勢リスク(国際紛争)
- 地政学リスク(エネルギーの低自給率)
- 自然災害リスク(地震・台風)
- パンデミックリスク(COVID-19)
- 規制リスク(カーボンプライス)
- 為替リスク(円安)

日本のエネルギー自給率は12.6%^{※2}
→海外からのエネルギー輸入に依存

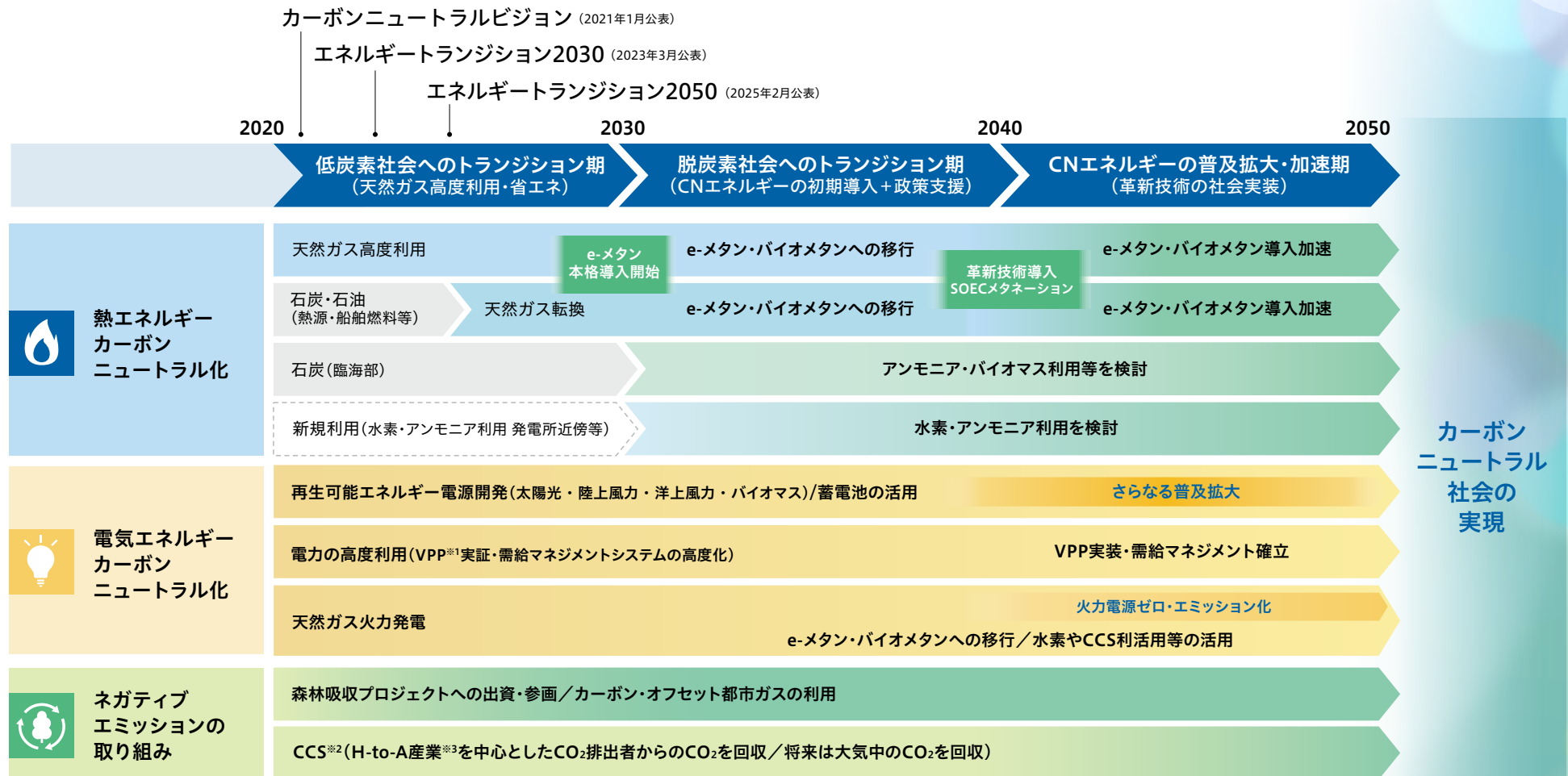


特集 Daigasグループエネルギーtransition2050

低・脱炭素化ロードマップ

現段階ではCNなエネルギーは割高であることから、社会コストを最小化するためには、段階的にtransitionを進める必要があると考えています。

2030年までは省エネや既存技術を活用した低炭素社会へのtransition、2030年からはCNエネルギー導入による脱炭素社会へのtransitionを進め、2040年から革新技術によるCNエネルギーの普及を拡大・加速して、エネルギーtransitionを牽引していきます。総合エネルギー企業としてS+3Eを踏まえた最適なソリューションをご提案し、ステークホルダーの皆さまとともにCN社会の実現を目指します。



※1 VPP=Virtual Power Plantの略称で、情報通信技術等により、アグリゲーターと呼ばれる事業者が分散電源等を統合的に制御することで、あたかも一つの発電設備のように機能する仮想発電所のこと

※2 CCS=二酸化炭素の回収・貯留 (Carbon dioxide Capture and Storage)

※3 H-to-A産業=CO₂排出削減が困難な産業 (Hard to Abate)

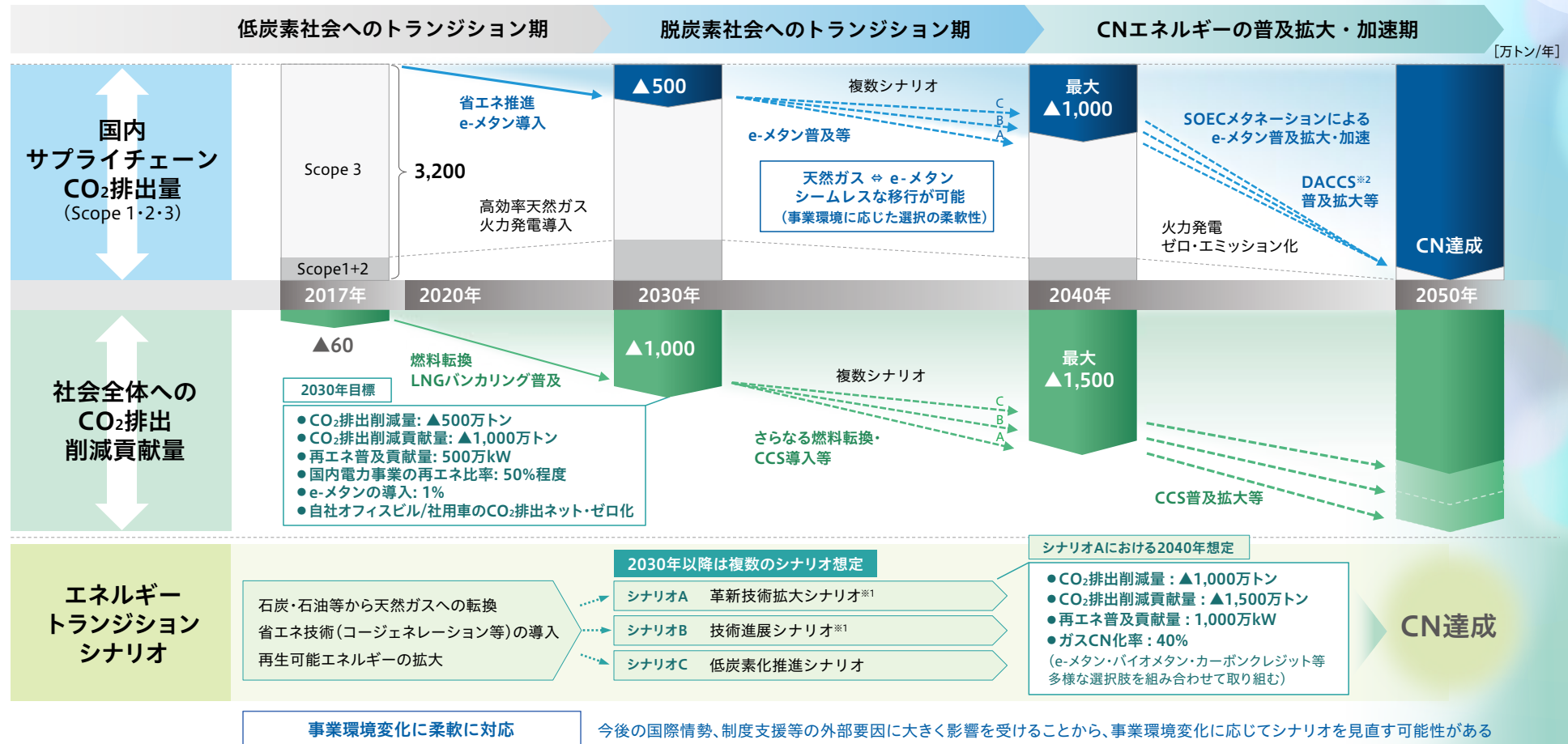


特集 Daigasグループエネルギーtransition2050

CO₂削減ロードマップ

Daigasグループは、2050年のCN社会の実現に向けたCO₂削減ロードマップを策定しました。

現在、エネルギーの安全保障が重要視される中、国の2040年に向けたエネルギーの需給見通しには、リスクケースも含め多様なシナリオが必要とされています。当社グループとしても、国が想定しているシナリオを含む複数の2040年のシナリオを検討しました。その中で、最大限にCNが進展した「革新技术拡大シナリオ」に基づく想定値を以下に示しています。これはあくまで一つのシナリオであり、2030年頃までにその実現可能性を見極め、国際情勢や制度の動向に注目しながらシナリオの見直しを行っていく方針です。



※1 日本の第7次エネルギー基本計画で示されているエネルギー需給見通しのシナリオ

※2 DACCS=二酸化炭素の分離・回収するDAC技術と地中に貯留するCCS技術を組み合わせる技術 (Direct Air Carbon Capture and Storage)



重点戦略__ミライ価値の共創

お客さまと社会のレジリエンス向上



地政学的リスクの高まりや気候変動の影響、自然災害への対策は、社会にとって大きな課題になっています。エネルギー事業を基盤とするDaigasグループは、それらの課題を解決するため、エネルギーサプライチェーンの安全性・安定性の強化に努めています。災害対策や保安に関する取り組みを継続し、災害に強い機器やエネルギーの普及を通じて、お客さまと社会のレジリエンス向上に貢献しています。

2024年度実績

重大事故および自社起因の
重大供給支障件数 **ゼロ**

防災・経年対策を推進

耐震化率^{※1} 約 **90%**

地震対策ブロック数^{※2} **738**ブロック

ねずみ鋳鉄管の対策完了

※1 耐震性のある管の全体に占める割合

※2 地震等の災害発生時に被害の大きいエリアのみガス供給を停止できるよう、導管ネットワークを分割したもの

2024年度までの進捗

エネルギーサプライチェーンにおけるレジリエンス向上

都市ガスおよびガス設備・発電設備の安全性を確保することは、Daigasグループとして最優先の責務と考えています。原料の調達から、お客さま先でガスや電気を使用されるまでの各段階におけるレジリエンス向上に取り組んだ結果、マテリアリティの指標目標である「重大事故および自社起因の重大供給支障件数ゼロ」の継続を達成しました。防災・経年対策については、阪神・淡路大震災の復旧活動から得られた知見等から予防対策・緊急対策・復旧対策と、東日本大震災の被害実績などに基づく津波対策の4つの防災対策に継続的に取り組んでいます。

さらに、電力サプライチェーンでは、再生可能エネルギー（以下、再エネ）電源の開発・調達による電力供給の強化に加え、安定供給に対応する技術開発や他社との協業を進めました。

具体的な取り組みは□□P.15をご覧ください。

■ 阪神・淡路大震災以降の主な地震対策の進捗状況

項目	主な地震対策	阪神・淡路大震災当時 (1995年1月)	現状 (2025年3月)
情報収集機能強化	地震計の増設	34カ所に設置	●約3,300カ所に設置
	地震被害予測システムの導入	—	●大阪ガスネットワーク(株)の本社・サブセンター・5事業部に導入
供給停止システム構築	供給ブロックの細分化	55のミドルブロック	●89のミドルブロック ●738のリトルブロック
	供給遮断装置の導入	スーパーブロック(供給エリアを8つに区分)のみ遠隔遮断装置	●遠隔遮断装置約3,600カ所 ●感震自動遮断装置約3,000カ所
緊急時通信強化	無線システムの強化	—	●本社・サブセンターをメイン拠点とした無線ネットワークの冗長化 ●可搬型衛星通信設備6台
その他	耐震化率	耐震性のある管の全体に占める割合68%	●耐震性のある管の全体に占める割合約90%
	ポリエチレン(PE)管の普及促進	PE管延長約1,200km	●新設低圧管には原則全数採用 ●PE管延長約18,600km
	重要オンラインのバックアップ	—	●バックアップセンターの開設

取り組みの課題と今後の戦略

国際的な政治の不安定さや、国際規制の変化といった地政学的リスクが高まっています。また、自然災害がもたらす影響も大きくなる可能性があるため、エネルギーの安定供給を確保するための対策が必要だと考えています。

今後も、LNG(液化天然ガス)の調達地域を多様化し、契約形態を最適化します。また、ガス設備や発電設備の安全性を確保するため、防災対策や訓練に取り組む続けます。

さらに、再エネの拡大が進む中で、昼夜の電力需要の変動によって、供給の過剰や不足が発生し、安定供給の課題となっています。当社グループでは、太陽光発電や「エネファーム」等、家庭で利用できる分散型の電源を組み合わせて、電力の需給を安定させることに貢献していきます。加えて、AI技術を活用してエネルギーの使用状況を可視化し、最適なエネルギー利用を実現する「エネルギーマネジメント」も推進していきます。



重点戦略__ミライ価値の共創

お客さまと社会のレジリエンス向上

Daigasグループは、エネルギーサプライチェーンにおけるレジリエンス向上を目指し、トレーディング・輸送ノウハウ活用とバリューチェーン間連携により、安定調達を実現するとともに、調達・販売の最適化に取り組んでいます。

技術開発等による保安・安定供給の高度化や従業員の安全意識向上を図るなど、災害対策への取り組みを進めています。

LNG調達先の多様化

トランジション期に重要な役割を担うエネルギーとして、天然ガスの安定調達・開発・供給に取り組んでいます。2024年度には、UAEアブダビ首長国の国営石油会社 ADNOCと、ルワイスプロジェクトにおいて生産される LNGの売買契約を締結し、調達の多様化を進めました。

船舶向けLNG燃料供給事業の開始

船舶燃料には主に重油が使用されており、国際海事機関(IMO)は、2050年頃までにGHG排出量ゼロを目標に設定しています。大阪ガスは、船舶燃料の低炭素化に向け、都市ガス事業者として初めてShore to Ship方式^{※1}による船舶向けLNG燃料の供給事業を2025年4月に開始しました。また、大阪湾・瀬戸内エリアにおいて、Ship to Ship方式^{※2}による船舶向けLNG燃料供給事業を、2026年度から開始予定です。これにより多様な方式でLNG燃料供給が可能となり、安定かつ柔軟なLNG燃料供給に寄与します。将来的には、船舶燃料として供給するLNGをe-メタンへ置き換えることで、船舶燃料の脱炭素化を目指します。

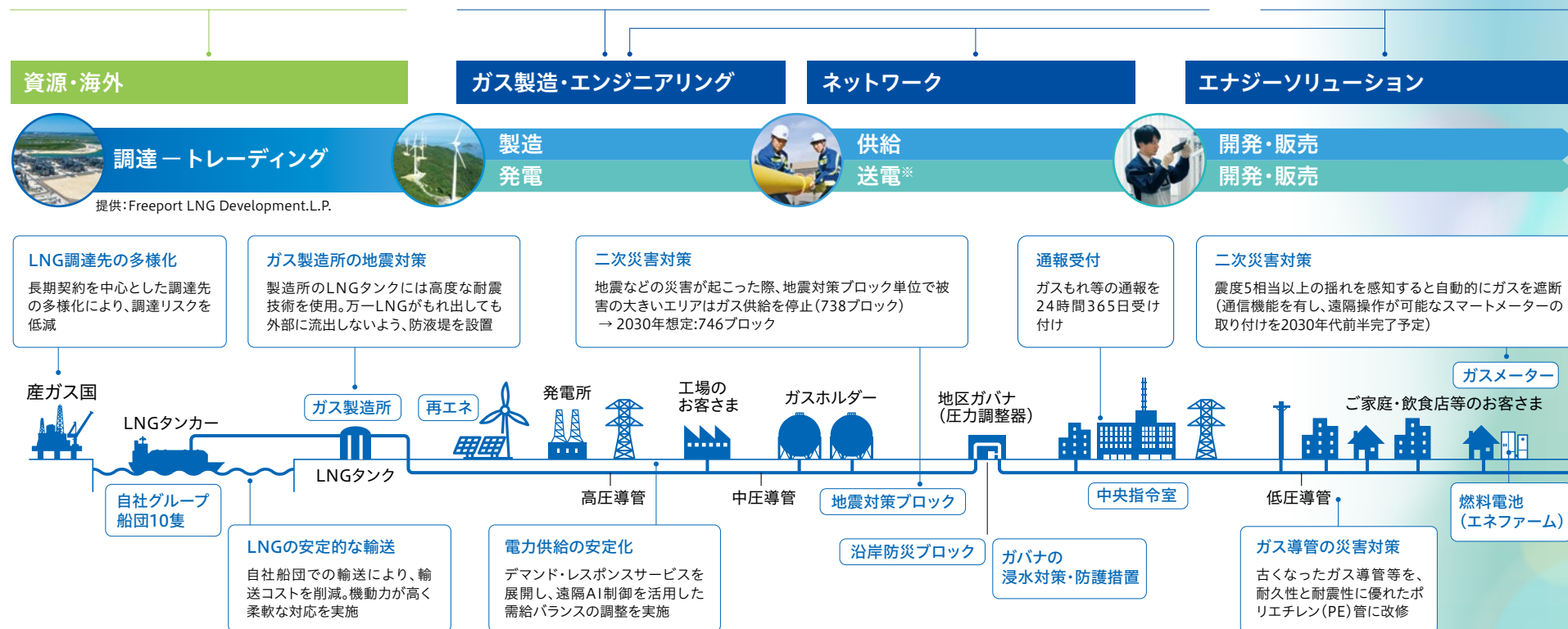
※1 岸壁・棧橋に係留中のLNG燃料船に対して、陸上LNGターミナルなどからLNGを供給する方式。

※2 岸壁に係留中もしくは錨地に停泊中のLNG燃料船に対して、パンカリング船が接触してLNGを供給する方式。

災害対策

エネルギーの製造から消費までの各プロセスにおいて、様々な対策や技術開発等による保安・安全供給の高度化を進めています。また従業員に対しては定期的な研修を実施し、安全意識の向上を図っています。

阪神・淡路大震災以降の主な地震対策の進捗状況については□P.14をご覧ください



※電気の供給は関西電力送配電(株)などの送配電網を利用



重点戦略__ミライ価値の共創

先進的で多様なソリューションの共創



カーボンニュートラル(以下、CN)やデジタル化が進む世界で、先進的で多様な選択肢を生み出し、家庭用のお客さまにはより快適な暮らしを、業務用・産業用のお客さまには安心してビジネスに専念できる環境の創出を実現します。これまでお客さまから頂戴したたくさんのお声とお客さまとの深く深いつながり、培ってきた技術等の強みを生かし、ステークホルダーとの共創を通じて、お客さまや社会から信頼されるマーケットに進化し続けます。

2024年度実績

お客さまアカウント数 **1,071** 万件お客さま満足度 **92** %低・脱炭素化やインフラのメンテ効率化に
寄与する新サービス等の社会実装

2024年度までの進捗

お客さまや社会のお役に立つサービスの提供と事業の成長を目指し、新サービスの拡充や新たなソリューションの展開を進め、お客さまアカウント数は1,071万件となりました。保安・サービスの品質向上にも努め、ご家庭のお客さまに直接対応する業務*に対する満足度は92%と高い水準を維持しました。また、2024年度からは事業創造本部の新規事業創出機能をさらに強化し、研究・技術開発や多様なパートナーとの連携から事業化までを一貫して推進し、さらなる新規事業創出に取り組みました。2024年11月には、次世代集光型太陽熱システムの開発を手掛ける豪州のスタートアップ企業FPR Energy社に出資し、産業用熱需要の脱炭素化への貢献を目指しています。さらに、ライフ&ビジネス ソリューション(LBS)事業領域においても、都市開発事業での新事業の開始や、情報事業でのM&Aによる事業領域の強化、材料事業での高付加価値な材料のさらなる開発などにより、事業を拡大しました。

※開栓、機器修理、機器販売(施工付き)、定期保安巡回(ガス設備調査)、電話受付(お客さまセンター)の5つの業務

国内エネルギー事業 詳細は、□□P.20をご覧ください

ライフ&ビジネス ソリューション(LBS)事業 詳細は、□□P.27をご覧ください

FPR Energy社への出資に関する詳細は、2025年9月公開予定の□「サステナビリティレポート2025」をご覧ください

2024年度に社会実装した主な案件

生成AIを活用してカーボンクレジットの品質を評価するシステムを構築

レーザー分光式検知器と専用ナビシステムによる漏えい検査の効率化
(第7回インフラメンテナンス大賞内閣総理大臣賞、2024年度日本ガス協会技術賞受賞)脱臭プロセスのCO₂削減を初期投資ゼロで提供するサービス「D-Remove」を開始

取り組みの課題と今後の戦略

ガス小売の自由化等による競合激化に加え、CN潮流の加速により、エネルギー事業環境が激しくなっています。新たな収益源を確保し、Daigasグループの持続的成長を図っていくため、各社が培ってきた事業ノウハウや強み、グループのシナジーを発揮し、多様化するお客さまのニーズにお応えする新たな事業を生み出し続けていきます。



重点戦略__従業員の輝き向上

従業員と企業の価値が相互に高まる環境づくり



Daigasグループは、人的資本は「価値創造の源泉」であると認識しています。労働人口が減少し労働観が多様化する中でも、人材の獲得を拡大させ、多様な人材が集い、切磋琢磨し合うことで従業員の力が最大限発揮される環境づくりを進め、企業価値を高めていきます。

また、会社と人材の双方向のコミュニケーションを通じて事業活動を活性化させ、従業員と企業が成長し合う関係をつくります。

2024年度実績

女性管理職昇格者比率 **18.2%**女性総合職採用比率 **39.4%**ワークエンゲージメント
スコア **52.2**新卒・キャリア採用
(総合職)合計数 **116人**次世代経営人材の
準備率 **260%**

2024年度までの進捗

急速に変化するビジネス環境においても活躍できる人材の獲得・育成を目指し、第二新卒採用の開始等、採用手法の拡充とともに採用数を拡大した結果、多様な人材を獲得することができました。自律的なキャリア形成支援として、社内インターンシップや社内副業制度を導入しました。

併せて、働きやすい職場環境の整備を進め、時間と場所に捉われない柔軟な働き方を推進してきました。

多様なキャリアや価値観を持った従業員の活躍推進においては、女性のキャリア教育の充実や、育児との両立支援等に取り組みました。これらの取り組みが評価を得て、女性活躍推進に優れた企業として「なでしこ銘柄」にはこれまでに7度選定されました。2024年度は共働き・子育てを可能にする性別を問わない両立支援に関する取り組みが特に優れた企業として「Nextなでしこ 共働き・子育て支援企業」に選定されました。

また、健康経営[※]にも取り組み、「Daigasグループ健康経営宣言」に加えて、健全な生活習慣を促す「行動指針“ヘルシー7”」を定め、“ヘルシー7”に基づいた健康増進活動を実施することで、従業員の生活習慣改善を目指しています。これらの取り組みを評価いただき、3年連続となる「健康経営銘柄2025」に選定されました。

※健康経営[®]はNPO法人健康経営研究会の登録商標です

具体的な取り組みは2025年9月公開予定の

□「人的資本レポート2025」 □「サステナビリティレポート2025」をご覧ください



取り組みの課題と今後の戦略

グループの事業拡大と事業ポートフォリオの多様化に対応するため、グループ全体での持続的な要員確保が重要です。カーボンニュートラルに関する技術開発やDX推進等の担い手を早期に拡充し、専門性の高い人材を含めた多様な要員を確保するとともに、経営戦略に必要な人材の育成、適所適材による個々の力を最大限発揮できる環境を構築するなどの取り組みを一層加速させていきます。例えば、定年延長などの人事制度改定により従業員の挑戦と成長を後押しし、個の活性化を推進していきます。



重点戦略_経営基盤の進化

ROIC経営の推進



各事業の稼ぐ力の向上と強靱な事業ポートフォリオ構築に向けて、2021年度以降ROIC経営を進め、成果が生まれてきています。中期経営計画2026では、カーボンニュートラル(以下、CN)投資など将来に向けて事業を育成しながら、資本効率を高めることで、企業価値向上を図ります。そのために、各分野で価値を生み出す源泉を見極め、保有資産の価値を最大化するアセットライتنا経営を志向していきます。

2024年度までの進捗

2021年度から2023年度の活動方針を示した「中期経営計画2023」でROICを経営指標として導入して以降、資本コスト(WACC)を意識しつつROICの改善に取り組んでいます。

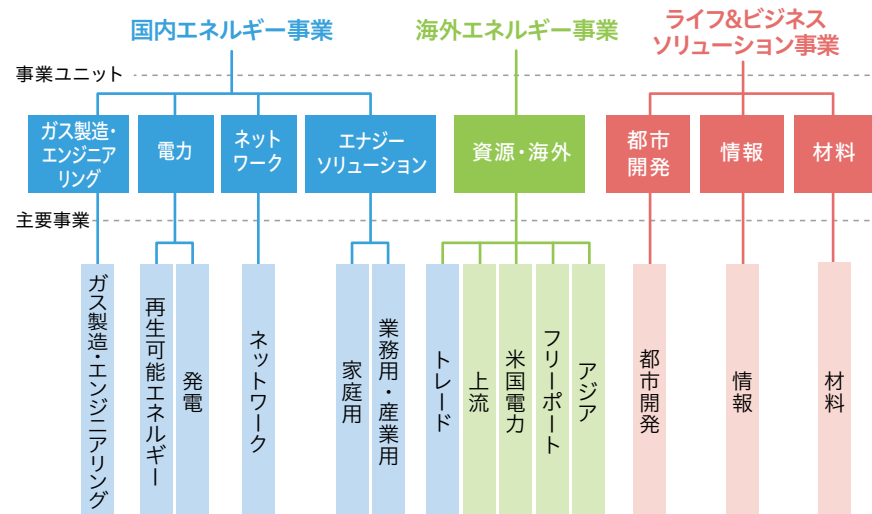
2024年度においては、より効率の高い資産への入替を促進するための米国火力発電所売却の意思決定や政策保有株式の売却の推進、国内における再生可能エネルギー(以下、再エネ)のオフテイク最大化を継続推進するなど、資産効率の向上の取り組みを各事業ユニットで自律的かつスピーディーに展開しました。利益面でも国内電力事業が好調に推移したことなどにより、経営目標を計画どおり達成することができました。2026年度の目標達成に向けて、順調に進捗しています。

取り組みの課題と今後の戦略

CN潮流の加速、エネルギー価格の高騰等の環境変化を踏まえ、再エネ、e-メタンといった将来のCN化に備えた投資を実行しながらも、資本効率を高め、企業価値向上を図らなくてはなりません。

そのため、既存の事業や資産のバリューアップによる利益拡大や、強みを生かし、バリューアップが可能な新規事業への取り組み、資本効率の劣後する事業や資産の売却、オフバランス化の推進といった取り組み継続が必要です。

■事業ユニットと主要事業



■セグメント別の主な取り組みと2026年度ROIC目標

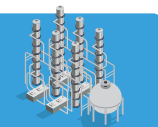
	主な取り組み	2024年度実績	2025年度見通し	2026年度目標
国内エネルギー事業	● マーケタービジネスにおけるサービス領域拡大と資産効率向上 ● ガス事業の広域展開と生産性向上 ● LNG取引の最適化による原料費低減、LNG販売益拡大 ● 電力バリューチェーンの強化・拡大 ● 再エネ事業における投資効率向上(資産のオフバランス/ファイナンススキーム進化等) ● 政策保有株式における個別銘柄ごとの保有意義再検証による適切な売却	4.2%	3.6%	4.0%
海外エネルギー事業	● トランジション期の低炭素化に貢献するシェールガス生産量拡大 ● 資産の入替え推進(米国電力等)	7.5%	7.4%	7.0%
ライフ&ビジネスソリューション事業	● 都市開発・情報・材料、それぞれの強みを生かした各分野における成長 ● 私募リート事業など資産効率化に向けた取り組み推進	5.3%	5.6%	5.5%
全体		5.4%	5.1%	5.0%程度



事業紹介

Daigasグループは国内エネルギー事業、海外エネルギー事業、ライフ&ビジネス ソリューション(LBS)事業という3つの事業分野で培ったノウハウと競争力のある資本を活用し、既存事業のさらなる成長と、国内外を問わず新たな事業領域の拡大に積極的にチャレンジすることで、複数の事業の集合体としての進化と「ミライ価値」の実現を目指します。

国内エネルギー事業



事業ユニット ガス製造・エンジニアリング/電力

ガス製造所のオペレーション・メンテナンス業務や火力発電所や再生可能エネルギー発電所の開発・運転・維持管理等を担っています。低炭素なLNGやCO₂フリーの電力など多彩なエネルギーの提供に加え、エンジニアリング事業やプラントの設計など、低・脱炭素社会実現に向けた技術開発等により環境価値を創造しています。



事業ユニット ネットワーク

大阪ガスネットワーク(株)※は都市ガス供給の強固なネットワークと万全の保安体制を構築するとともに、ノウハウの深化や最先端のデジタル技術の活用によって、安心・安全に都市ガスを届けています。

※2021年4月1日に分社準備会社として設立、2022年に分社化



事業ユニット エナジーソリューション

ご家庭や業務用・産業用のお客さまに向け、エネルギーをはじめとする先進的な商品・サービスの開発や、その販売拡大に取り組み、お客さまへの先進的で多様なソリューションの共創に取り組んでいます。



事業ユニット トレード

LNGの調達先・価格指標等の多様化を進め、安定的に調達したLNGを国内外のお客さまに供給しています。

海外エネルギー事業



事業ユニット 資源・海外

米国・アジア・オセアニアを中心に海外事業を成長・拡大させています。

上流

米国シェールガス開発会社(サビン社)をはじめとするガス田プロジェクトを通じて、生産量・利益拡大に取り組んでいます。

北米中下流

国内で培ったノウハウを活用して、海外での発電事業やLNG基地事業、エネルギーサービス事業などに参画しています。

アジア

国内都市ガス事業で培った経験・強みを生かし、都市ガスインフラの整備を進め販売拡大に取り組んでいます。再生可能エネルギー事業等にも取り組み、アジア諸国の経済発展とエネルギーの低炭素化に貢献しています。

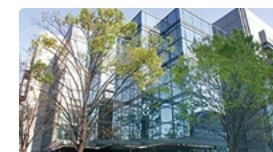


ライフ&ビジネス ソリューション(LBS)事業



事業ユニット 都市開発

分譲・賃貸マンション、オフィスビル、物流施設などの物件の開発、運営管理、私募リートへの物件売却など、不動産事業を幅広く展開しています。



事業ユニット 情報

当社グループの事業向けシステム開発・運用を祖業とし、M&Aによりシステム技術を高めつつ、ITコンサルティング、システム開発、運用管理、データ分析等を通じて、社内外のニーズに応じたトータルソリューションを提供し、デジタル化を支援しています。



事業ユニット 材料

大阪ガスが培った石炭化学技術(石炭を原料としたガス製造の副産物の応用等)により、ファイン材料、保存剤、炭素材料、活性炭といった高機能素材の研究開発、製造、販売を行い、国内外で幅広く事業を展開しています。





セグメント別事業戦略

国内エネルギー事業

目指す姿

国内エネルギー事業では、お客さまへ、安全・安心で安定したエネルギーを変わらず供給し続けることを最優先としつつ、これまで培ってきたステークホルダーの皆さまとの信頼関係を生かし、多様なサービスの創出による皆さまの快適な暮らしとビジネスの発展への貢献を通じ、Daigasグループの持続的な成長を目指します。

加えて、カーボンニュートラル(以下、CN)の推進と天然ガスの利活用を通じて、お客さまが手続きの煩わしさを伴うことなく、シームレスにCN社会に移行することを目指します。

事業環境認識

強み

- 調達・製造・供給・販売までのエネルギーバリューチェーンの保有
- 安定供給のための高い技術力・ノウハウ
- 低炭素エネルギーであるLNG・都市ガス、天然ガス火力発電や、再エネに関する商品・サービスの提供、および脱炭素エネルギーであるe-メタンも含めた技術・ノウハウの保有
- 安定した顧客基盤と長年の信頼関係

機会

- トランジション期における低炭素エネルギーへの転換需要
- 再エネ需要の拡大および系統安定化ニーズの高まり
- DXや生成AIの進展に伴うエネルギー需要増

課題

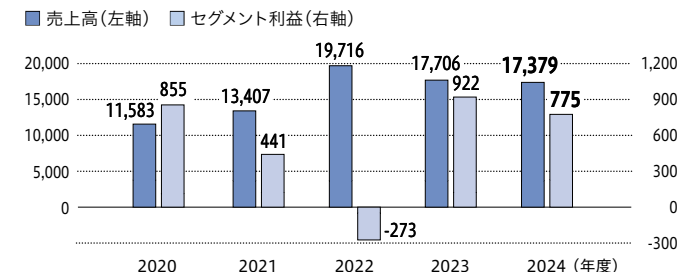
- 安定的・経済的な原燃料調達
- 競争力のある電源の確保および再エネ普及拡大
- 安定供給と保安の継続確保

リスク

- 災害等による調達、ガス製造、発電、供給に関するトラブル
- 気候変動、CN潮流の加速による市場環境の急激な変化
- 他事業者との競争激化

2024年度
実績売上高 **17,379** 億円セグメント利益^{※1} **775** 億円

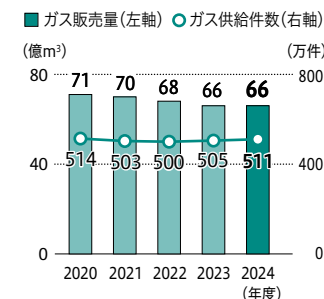
※1 営業利益+持分法による投資損益

2026年度に
向けた
成長投資1,850 億円^{※2}※2 2024年度～
2026年度累計(計画)売上高^{※3}(億円) セグメント利益^{※3}(億円)

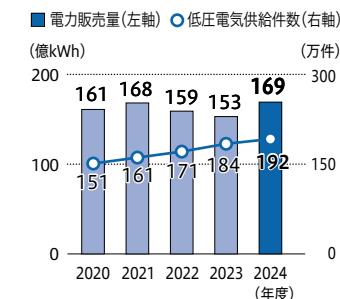
※3 2020年度に(株)ガスアンドパワー(国内エネルギー・電力)をDaigasガスアンドパワーソリューション(株)(国内エネルギー・ガス)に吸収合併。

2021年度から、「国内エネルギー・ガス」と「国内エネルギー・電力」を「国内エネルギー」へ統合、「海外エネルギー」に属していたLNG輸送を行う大阪ガスインターナショナルトランスポート(株)等を、エネルギー販売・需給管理等を一体的に運営することを目的に「国内エネルギー」に統合、大阪ガス(国内エネルギー・ガス)に含まれていた海外エネルギーのための営業費用を「海外エネルギー」に移管。
それぞれ2020年度の実績は変更後の内容で記載

国内ガス販売量・供給件数



国内電力販売量・低圧電気供給件数



INPUT

- セグメント資産額 **16,408** 億円
- セグメント成長投資額 **341** 億円
- 品質向上投資 **737** 億円
- 安定供給のための高い技術力・ノウハウ
- 安定した顧客基盤と長年の信頼関係

OUTPUT

- 売上高 **17,379** 億円
- セグメント利益 **775** 億円
- 重大事故・自社起因の重大供給支障件数 **ゼロ**
- お客さまアカウント数 **1,071** 万件

OUTCOME

- 安全・安心で安定したエネルギー供給
- CN社会への貢献
- ステークホルダーとの多様なソリューションの共創



国内エネルギー事業

2024年度の実績とさらなる成長に向けた取り組み

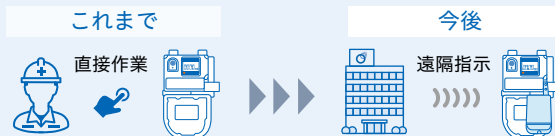
ネットワーク事業

2024年度は、ガス安全高度化計画の目標であるねずみ鋳鉄管の対策工事を完了しました。引き続き、ポリエチレン管など耐震性の優れたガス導管への入れ替えや、地震対策ブロック数の細分化など、強靱な設備形成に取り組んでいます。

また、DXによる保安の高度化・生産性向上に取り組んでおり、2025年度は、スマートメーターの通信機能を活用することで迅速な保安確保と作業の効率化を図るとともに、3D写真による導管工事図面の自動作成を開始し、図面作成時間を削減するなど、業務効率化を進めています。

● スマートメーターの通信機能活用

緊急時のガス遮断・復帰作業や毎月の検針を遠隔化



● 3D写真による導管工事図面の自動作成

スマートフォンの撮影画像から3D図面を自動作成



左:生成された3Dモデルデータ(工事図面への活用が可能)
右:実際に施工された配管(撮影時に必要情報を認識)

ガス小売事業の維持・拡大のための取り組み

住空間サービスの拡大や燃料転換活動、エネルギーサービスの販売強化等により、ガス販売量や供給件数の維持・拡大を図ります。

● 家庭用の取り組み

従来のガス機器のほか、太陽光発電や電気自動車などをIoTでつなぎ、ガス・電気のベストミックスによるエネルギーマネジメントを行うことで、スマートで快適な暮らしの実現を目指します。

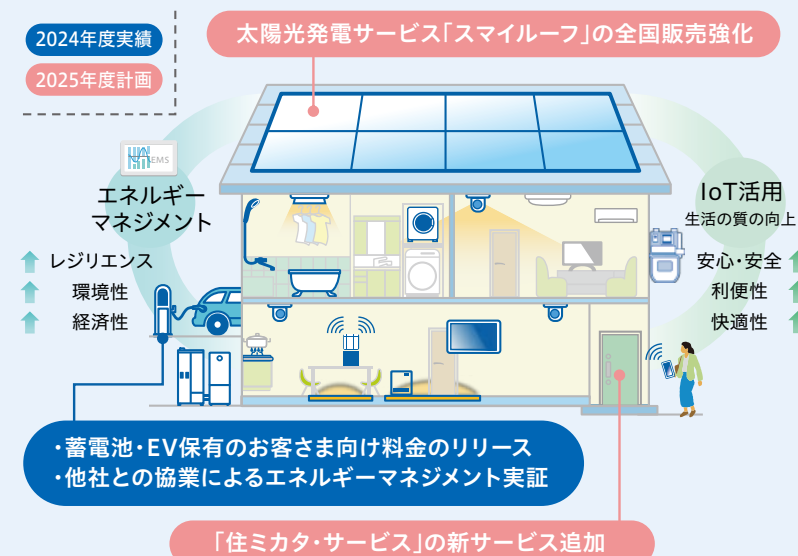
2025年度は、導入コスト0円からはじめられる太陽光発電サービス「スマイルーフ」の全国での販売強化や、「住ミカタ・サービス」において新たにメニューを追加するなど、住空間サービスの拡大を進めます。

● 業務用・産業用の取り組み

確実な低炭素化につながる石炭・石油から天然ガス・LNGへの燃料転換の取り組みを進めており、2024年度は、約6万トン/年規模(LNG換算)の大規模工事を受注しました。また、発電時の廃熱を有効活用したコージェネレーションシステムの導入により省エネを推進しています。

持続的な資源の循環を目指した食品・排水等の廃棄物削減や再資源化、人手不足や技術伝承の課題に対するデータ・デジタル活用による事業活動サポートなど、お客さまの様々な課題を「カーボンニュートラル」「3R※」「DX」の3つの視点で解決するソリューションサービスとして「D-Lineup」を展開し、さらなる充実を図っていきます。

※Reduce / Reuse / Recycle



D-Lineup

Decarbonization
(脱炭素化)

Decentralization
(分散化)

Digitalization
(デジタル化)



国内エネルギー事業

2024年度の実績とさらなる成長に向けた取り組み

電力事業

● 低炭素な天然ガス火力発電の取り組み

低炭素化と安定的な電力供給の実現には、出力調整が容易な天然ガス火力発電が必要不可欠です。Daigasグループは、2022年8月から姫路天然ガス発電所の本工事を開始しました。2026年1月に1号機、同年5月に2号機が運転開始を予定しており、その発電規模は約120万kWとなります。これにより、国内火力発電容量は、200万kWから320万kWに拡大します。

また、2025年3月には、長期脱炭素電源オークションで落札した天然ガス発電所（姫路天然ガス発電所3号機）を、複数社と共同建設することを決定しました。約60万kWの高効率なガスタービンコンバインドサイクル発電設備を導入し、2030年度中の運転開始を目指しています。

今後は、e-メタン・バイオメタン利用、水素利用、天然ガス+CCS等の可能性を検討することで主力電源である火力発電の2050年ゼロ・エミッション化を目指します。

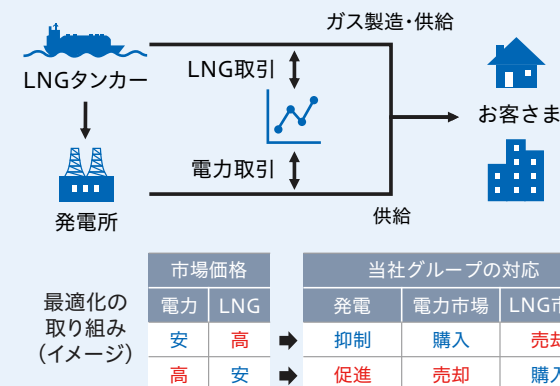


姫路天然ガス発電所

● LNGや電力の取引市場を活用した取り組み

DaigasグループはLNGの調達から販売までのバリューチェーンを保有する強みを生かし、自社設備の稼働調整と市場取引を最適化することで、安定供給を維持しつつ調達コストを抑制し、トレード利益の最大化を実現しています。

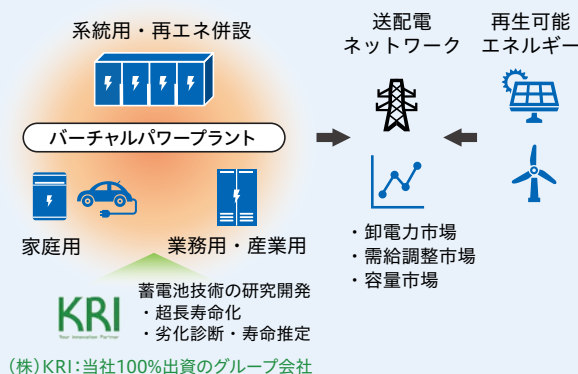
最適化の例としては、LNGが高く電力が安い場合は、発電を抑制して市場から安い電力を購入し、余ったLNGを販売します。市場で余り気味の電力を引き取り、不足気味のLNGを提供することで、電力の需給調整に貢献し、その対価としてトレード利益を獲得します。



● 再生可能エネルギー普及に関する取り組み

Daigasグループは、太陽光、バイオマス、風力など多様な再エネ電源の開発を進めてきました。2025年度はこれまで開発・建設を進めてきた袖ヶ浦と御坊のバイオマス発電所が運転を開始いたします。

また、蓄電池は、再エネの普及拡大による出力の変動を抑制することができ、今後重要性がますます高まることから、当社グループは系統用・再エネ併設型の蓄電池に加え、家庭用や業務用・産業用向けの蓄電池販売や蓄電所の設置を進めています。これらの蓄電池を束ねてバーチャルパワープラント化を進め、国内トップクラスの蓄電池運用事業者になることを目指します。



■ バイオマス発電所（2025年8月末現在）

	所在地	運転開始時期	発電設備容量
松坂木質バイオマス	三重県	2018年 1月	2MW
市原バイオマス	千葉県	2020年12月	50MW
徳島津田バイオマス	徳島県	2023年12月	75MW
広畑バイオマス	兵庫県	2023年12月	75MW
日向バイオマス	宮崎県	2024年10月	50MW
愛知田原バイオマス	愛知県	2024年11月	75MW
袖ヶ浦バイオマス	千葉県	2025年 7月	75MW
御坊バイオマス	和歌山県	2025年 8月	50MW



提供: Freeport LNG Development, L.P.



海外エネルギー事業

目指す姿

海外エネルギー事業では、国内で培ったエネルギーバリューチェーンのO&M・エンジニアやソリューションサービスの提案力を活用しつつ、長年積み重ねてきた海外各国での事業運営の経験・知見を元に、上流から中下流事業まで事業領域の拡大と多様化を進めてきました。

現在、海外エネルギー事業は当社の事業の柱の一つとして成長し、国内エネルギー事業のみに依存しない安定的な収益基盤として、Daigasグループの利益に貢献しています。

今後も効率的に利益規模の拡大を進めるとともに、e-メタプロジェクト開発等により、CN社会の持続可能性に寄与する安定的かつ低廉なエネルギー供給や利便性の高いサービスの提供を目指します。

事業環境認識

強み

- 上流から中下流までバリューチェーン全体で事業を展開
- 国内の知見を生かしたエネルギー事業の運営ノウハウの保有

機会

- 低・脱炭素エネルギー需要の増加
- 新興市場でのエネルギー需要の増加

課題

- 安定調達と収益獲得のための安全かつ安定的な操業
- 事業参画等を通じた新領域におけるノウハウ取得

リスク

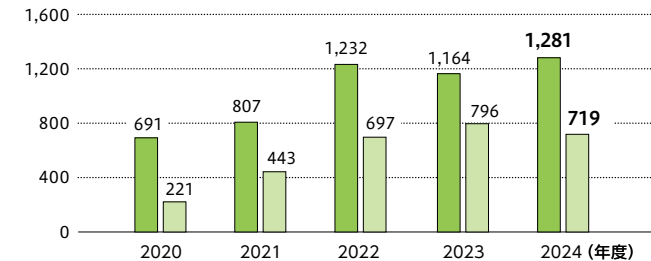
- 事業を行う国における政策、規制の実施や変更、経済社会情勢等の悪化
- 原油価格やガス価格等の市況変動、技術的課題

2024年度
実績売上高 **1,281** 億円セグメント利益^{※1} **719** 億円

※1 営業利益 + 持分法による投資損益

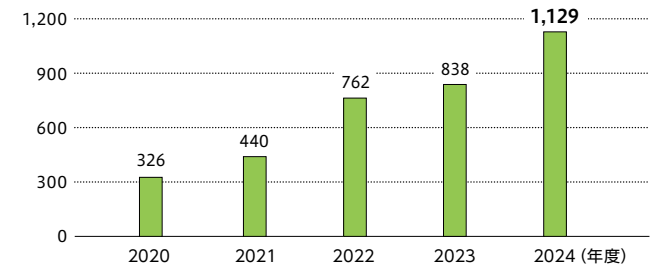
2026年度に
向けた
成長投資**2,250** 億円^{※2}※2 2024年度～
2026年度累計(計画)売上高^{※3}(億円) セグメント利益^{※3}(億円)

■ 売上高 ■ セグメント利益



※3 2021年度から、「海外エネルギー」に属していたLNG輸送を行う大阪ガスインターナショナルトランスポート(株)等を、エネルギー販売・需給管理等を一体的に運営することを目的に「国内エネルギー」に統合、大阪ガス(国内エネルギー・ガス)に含まれていた海外エネルギーのための営業費用を「海外エネルギー」に移管

海外エネ事業における各年度の成長投資額 (億円)



INPUT

- セグメント資産額 **11,054** 億円
- セグメント成長投資額 **1,129** 億円
- 上流から中下流までバリューチェーン全体で事業を展開
- 国内の知見を生かしたエネルギー事業の運営ノウハウの保有

OUTPUT

- 売上高 **1,281** 億円
- セグメント利益 **719** 億円
- 米国サビン社において、価格ヘッジと開発拡大、安定操業による着実な利益成長
- 成長市場であるインドでの都市ガス事業展開

OUTCOME

- グローバルなエネルギー供給の安定化
- CN社会への貢献
- 国・地域の経済発展への貢献



海外エネルギー事業

2024年度の実績とさらなる成長に向けた取り組み

上流事業(米国)

Daigasグループは、事業ポートフォリオ拡大によるグループ収益基盤強化・安定化に寄与する上流事業に取り組んでいます。

米国においては、2019年にサビン社の全株式を取得し、シェールガス開発事業においてプロジェクトを主体的に推進するオペレータシップを獲得しました。ヘッジ活用による収益安定化を図りながら、ガス価格(ヘンリーハブ)等の市況変化に応じて柔軟に生産量・新規井開発の調整や資産の取得・売却を選択することで収益の最大化に取り組み、当社グループの利益成長を牽引しています。

● 2024年度の実績

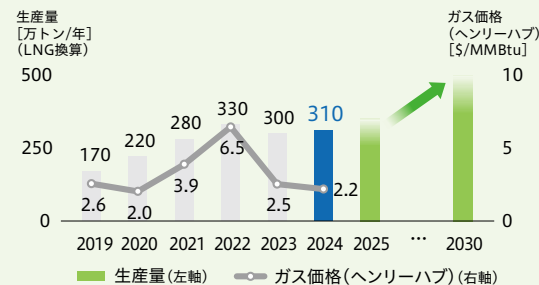
さらなる事業成長に向け、シェールガス鉱区の追加取得を実施しました。鉱区面積は当社100%出資時から1.2倍に増え、約1,200km²(琵琶湖の約2倍相当)にまで拡大しました。

ガス価格が低水準に推移したものの、価格の下落リスクに備えたヘッジ取引の分散化、機動的な生産量コントロールや販路拡大により、安定的に利益貢献しました。

● 今後の取り組み

ガス価格を注視しつつ、鉱区の追加取得・開発拡大により中長期での生産量の拡大を目指します。

■ サビン社生産量の推移



サビン社井戸掘削現場

アジア事業(インド)

アジアでは、中下流事業を展開しています。中下流事業は、国内エネルギー事業で培ったノウハウや経験を活かしながら、現地での事業ノウハウを蓄積し、各国の経済発展とエネルギーのカーボンニュートラル化に貢献することで持続的な成長を目指します。

インドは、経済成長に伴うエネルギー需要の増大と低炭素化・大気汚染への対策として、都市ガスインフラ整備による天然ガス自動車の普及など、政府が天然ガスの利用拡大を推進しており、成長が期待できる市場です。Daigasグループは、2021年に現地の都市ガス事業会社への出資を通じて、日本企業として初めてインド都市ガス事業に参画しました。インド政府から独占事業権を与えられた事業エリアにおいて、交通用を中心に、家庭用・業務用・産業用向けに都市ガスの販売を拡大することで、アジアにおける事業の柱に育成するとともに、インドのエネルギーの低炭素化と安定供給に貢献します。

● 2024年度の実績

インドでの都市ガス事業への追加出資を実施し、事業エリアを約27万km²から約32万km²(日本の国土の約9割)に拡大しました。ガス導管は累計1万kmに到達(当社グループの国内導管敷設距離の約6分の1)し、ガス販売量は前年度の約2.5倍となる3.7億m³/年にまで増加しました。

● 今後の取り組み

2030年度において、国内都市ガス販売量の半分程度相当である約35億m³/年にまで販売量を拡大し、中長期的な収益基盤の確立を目指します。

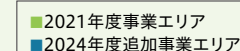
また、日系コンソーシアムを通じて、インドの再エネ事業会社と合併会社を設立し、3年後には約400MWの再エネアセットを保有することで、エネルギーの脱炭素化へも貢献してまいります。

■ ガス販売量の推移

2023年度実績	2024年度実績	2025年度計画	...	2030年度計画
1.5億m ³ /年	3.7億m ³ /年	5.4億m ³ /年	...	約35億m ³ /年

■ 事業エリア

総面積：約32万km²



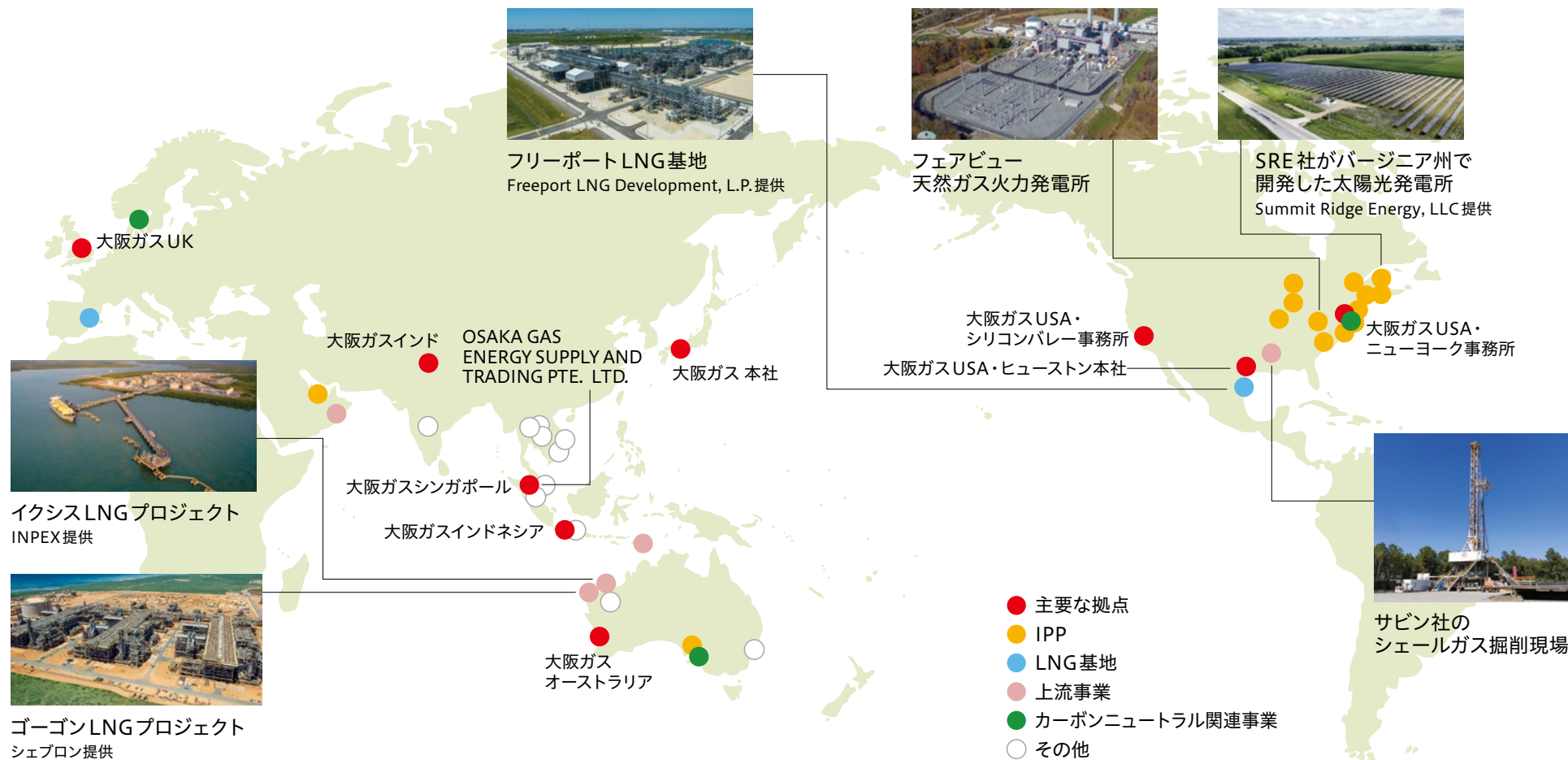
CNGステーション充填待機列の様子



海外のエネルギーインフラ

海外エネルギー事業では、トランジション期に重要な役割を果たす天然ガスの安定調達・供給と普及拡大に努めるとともに、再生可能エネルギーや新エネルギー領域、カーボンニュートラル実現に向けた事業等の取り組みを強化しています。

■ 海外エネルギー事業の投資の状況 (2025年3月末時点)





ライフ&ビジネス ソリューション(LBS)事業

目指す姿

LBS事業は、エネルギー事業で培った技術や事業ノウハウを生かし、着実に利益成長しています。エネルギー事業と異なる事業を展開することで、原油価格や為替の影響を受けにくく、グループの収益貢献に安定的に寄与しています。

アセットライトな不動産事業経営、高付加価値なシステムや高機能素材等の提供など、各社が培ってきた強みとDaigasグループのシナジーを発揮し、成長を加速していきます。

事業環境認識

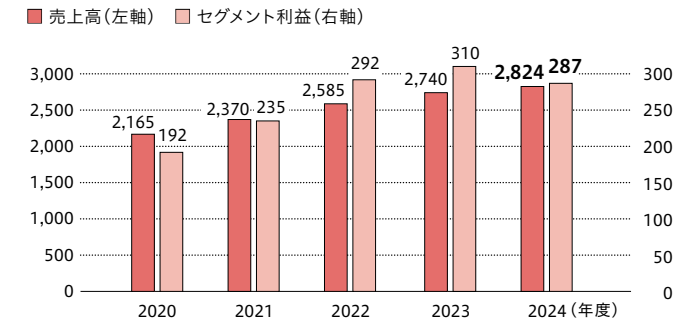
	都市開発	情報	材料
強み	●開発、運営管理、売却等の幅広い不動産関連事業を展開	●IT戦略策定から開発・保守・運用までをワンストップで提供可能	●高機能かつ付加価値の高い製品を開発し、国内外の需要に応える高い技術力
機会	●不動産投資市場が活況	●AI等DXニーズの高まり	●環境意識の高まり
課題	●建設資材の高騰への対応	●人材確保・育成	●原料価格高騰への対応や高付加価値製品の開発
リスク	●不動産市況の悪化	●高度なサイバー攻撃による情報漏洩	●原料価格の高騰

2024年度
実績売上高 **2,824** 億円セグメント利益※1 **287** 億円

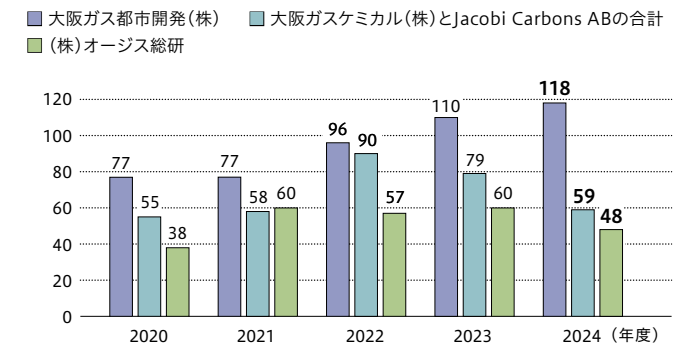
※1 営業利益+持分法による投資損益

2026年度に
向けた
成長投資**1,500** 億円※2※2 2024年度～
2026年度累計(計画)

売上高(億円) セグメント利益(億円)



各社の営業利益(億円)



INPUT

- セグメント資産額 **5,283** 億円
- セグメント成長投資額 **623** 億円
- 資本効率を意識しながら不動産事業領域を拡大
- 開発・保守・運用のワンストップ提供
- 高付加価値の化学製品開発・販売

OUTPUT

- 売上高 **2,824** 億円
- セグメント利益 **287** 億円
- 賃貸・分譲マンションを中心とした不動産事業の成長
- M&AによるERP※事業領域の強化
- 無機系材料などが好調に推移

※ERP: Enterprise Resource Planningの略。
お客さまの企業活動を一元管理し、効率的な経営に寄与するシステムのこと

OUTCOME

- 快適な場所や空間、サービスの提供
- お客さまのビジネスの進化
- ものづくりを通じた持続可能な社会への貢献



ライフ&ビジネス ソリューション(LBS)事業

2024年度の実績とさらなる成長に向けた取り組み

都市開発事業

分譲・賃貸マンション、オフィスビル、物流施設などの物件の開発、リサーチパーク事業、リート事業、建物・施設の運営管理など、不動産事業を幅広く展開しています。

● 2024年度の実績

主力事業である賃貸・分譲マンション事業が好調に推移しました。資本効率向上のため私募リートへの売却を計画的に行いました。

● 今後の取り組み

資本効率を意識した事業経営を継続するとともに、首都圏オフィスや物流事業等、事業領域を拡大していきます。



アーバネックス 早稲田テラス

グループシナジー効果

Daigasグループの営業ネットワーク活用による用地情報取得やエネルギー商材のセット提案力の強化・創出

情報事業

Daigasグループの事業向けシステム開発・運用で培った知見を生かし、一般のお客さま向けにも事業を展開しています。M&Aを通じて製造業や金融業向けの企業、またERPに強みを持つ企業等をグループに加え、事業領域を拡大しています。

● 2024年度の実績

フィリピンを中心に東南アジア地域においてERP事業を展開するFasttrack Solutions Inc.グループの事業を取得しました。

● 今後の取り組み

当社グループ内外のDX需要を取り込み、ERPやAI領域等での事業規模を拡大していきます。



グループシナジー効果

DX推進活動でのグループ連携によるグループ経営基盤の強化

材料事業

大阪ガスが培った石炭化学技術(石炭を原料としたガス製造の副産物の応用等)や、医薬・農業関連技術により、ファイン材料、炭素繊維材料、活性炭、シリカ・アルミナ系材料、保存剤といった多様で高機能な素材の開発、製造、販売を行っています。

● 2024年度の実績

無機系材料などが好調に推移しました。

● 今後の取り組み

既存事業の維持・拡大とともに、製品多軸化による成長分野の開拓を行っていきます。



D-BHB(天然由来ケトン体)



活性炭

グループシナジー効果

グループでの共同研究や人材ローテーション等、R&D分野での連携による高機能素材の開発の強化



大阪ガス(株)所在地

(2025年7月1日時点)

本社 大阪市中央区平野町4-1-2
東京支社 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル6階

エナジーソリューション事業部

お客さまセンター

大阪事務所	大阪市西区千代崎3丁目南2-37	TEL:0120-0-94817
南部事務所	堺市堺区住吉橋町2-2-19	TEL:0120-3-94817
和歌山事務所	和歌山市十一番丁1-2	TEL:0120-3-94817
北部事務所	高槻市藤の里町39-6	TEL:0120-5-94817
東部事務所	東大阪市稲葉2-3-17	TEL:0120-5-94817
奈良事務所	奈良市学園北2-4-1	TEL:0120-5-94817
兵庫事務所	神戸市中央区東川崎町1-8-2	TEL:0120-7-94817
蒼合事務所	神戸市中央区北本町通2-1-1	TEL:0120-7-94817
姫路事務所	姫路市神屋町4-8	TEL:0120-7-94817
京都事務所	京都市下京区中堂寺栗田町93	TEL:0120-8-94817
滋賀事務所	草津市西大路町5-34	TEL:0120-8-94817

ガス製造・エンジニアリング事業部

泉北製造所第一工場	堺市西区築港浜寺町4
泉北製造所第二工場	高石市高砂3-1
姫路製造所	姫路市白浜町灘浜1

ショールーム

■ ご家庭用／業務用機器・設備

情報発信拠点: hu+gMUSEUM(ハグミュージアム)
大阪市西区千代崎3丁目南2-59 TEL:06-6586-3789

ショールームの開館時間・地図は
ウェブサイトをご覧ください。

[大阪ガス ショールーム](#)[検索](#)

■ ご家庭用機器・設備

[DILIPA]神戸	神戸市中央区東川崎町1-2-2 ハウジングデザインセンター神戸1階	TEL:078-366-2657
[DILIPA]京都	京都市下京区中堂寺栗田町93 七本松五条下ル西側 KRP(京都リサーチパーク)ガスビル1階	TEL:075-315-8853
[DILIPA]草津	草津市西大路町5-34	

*DILIPA草津は無人営業のショールームとなります。DILIPA草津ホームページよりご予約ください。

「オンラインショールーム」ではご自宅やオフィスなどから、動画やデジタルカタログで
ガス機器や住宅設備をご覧いただくことができます。

[大阪ガス オンラインショールーム](#)[検索](#)

研究所

先端技術研究所 大阪市此花区西島6-19-9

PR館

ガス科学館 高石市高砂3-1 TEL:072-268-0071

Daigasグループ 主要会社一覧

(2025年7月1日時点)

事業部組織関係会社

資源・海外事業部

Osaka Gas USA Corporation	天然ガス等に関する開発、投資等
Osaka Gas Australia Pty. Ltd.	
大阪ガスインターナショナル トランスポート(株)	LNGタンカーの賃貸等
ユナイテッド・エルエヌジー・ トレーディング(株)	LNGに関する貿易、通関業務等
泉北発電燃料(株)	泉北天然ガス発電所向けの LNG調達、販売
大阪湾LNG SHIPPING(株)	LNG燃料供給船舶の保有
Osaka Gas UK, Ltd.	エネルギー供給事業に関する 調査、投資等
Osaka Gas Energy Oceania Pty. Ltd.	
Osaka Gas Liquefaction USA Corporation	天然ガス液化基地等に関する 投資等
Osaka Gas Energy Supply and Trading Pte. Ltd.	天然ガス・LNG等に関する 取引等
Sabine Oil & Gas Corporation	テキサス州東部における シェールガス等の開発事業
OSAKA GAS SINGAPORE PTE. LTD.	エネルギー関連事業に関する調査・開発・投資、 東南アジアのグループ企業の管理・運営
DAIGAS SJ CGD PTE. LTD.	インド都市ガス事業の管理・運営
DJ Renewables Pte. Ltd.	インド再生可能エネルギー事業の 管理・運営
PT OSAKA GAS INDONESIA	産業用顧客への天然ガス共同マーケティング 事業、エネルギー関連事業
Osaka Gas India Private Limited	インドにおける既存事業の管理および 新規事業開発

ガス製造・エンジニアリング事業部

Daigasガスアンドパワー ソリューション(株)	ガス製造所・発電所のオペレーション &メンテナンス、発電および 電気供給事業、エンジニアリング事業
大阪ガスリキッド(株)	液化窒素・液化酸素・液化アルゴン・ 液化炭酸の製造および販売、低温粉 砕の受託
(株)コールド・エアー・プロダクツ (株)クリオ・エアー	液化窒素・液化酸素・ 液化アルゴンの製造および販売
近畿炭酸(株)	液化炭酸ガスの販売
長岡炭酸(株)	
(株)ガスネット	酸素、窒素等各種高圧ガスの製造・ 販売、各種高圧ガス設備・機器の 施工・販売・メンテナンス

電力事業部

中山共同発電(株)	発電および電気供給事業
中山名古屋共同発電(株)	
(株)広川明神山風力発電所	
(株)葉山風力発電所	
由良風力開発(株)	
肥前風力発電(株)	
平生風力開発(株)	
印南風力発電(株)	
尻別風力開発(株)	
泉北天然ガス発電(株)	
姫路天然ガス発電(株)	
袖ヶ浦バイオマス発電(株)	
広畑バイオマス発電(株)	
Daigas大分みらいソーラー(株)	
日向バイオマス発電(株)	
千里蓄電所(株)	
(株)グリーンパワーフュエル	国産材発電用等の燃料の調達・販売

エナジーソリューション事業部

大阪ガスマーケティング(株)	家庭用顧客向けガス・電気の販売および 保守等、機器販売事業、リフォーム・ リノベーション事業、固定通信事業、 デジタルプラットフォームサービスの提供
Daigasエナジー(株)	業務用・産業用顧客向けガス・ 電気の販売および保守等、 機器販売・エンジニアリング・施工、 エネルギーサービス事業、液化天然ガス・ 液化石油ガス販売事業、熱供給事業
(株)リビングメンテサービス北東	ガス機器・住宅設備機器のメンテナンス・ 販売・施工、業務用GHPのメンテナンス、 空調設備の販売・施工
(株)リビングメンテサービス大阪	ガス機器・住宅設備機器のメンテ ナンス・販売・施工



(株)大阪ガスクッキングスクール	料理講習の受託運営、料理レシピ制作・監修
(株)クリエ関西	雑誌「あまから手帖」等の編集・発行
大阪ガスリノテック(株)	給水・給湯管および排水管・空調配管の 更生・更新工事、貯水槽の内面ライニング 工事・外面ラッピング工事・更新工事
関西ビジネスインフォメーション(株)	コールセンター受託・人材サービス、 各種調査、コンサルティング、 ITメディアビジネス、教育・研修業務、 建築設計、スペースプランニング
大阪ガス住宅設備(株)	住宅設備機器の販売、 住宅の建築・販売、リフォーム
大阪ガスセキュリティサービス(株)	警備および防災業務の受託、 ホームセキュリティシステムの販売、 マンションの総合管理
大阪ガスファイナンス(株)	リース・クレジット、生命保険・ 損害保険業務、自動集金サービス
(株)西日本住宅評価センター	住宅性能評価業務、建築確認検査、 技術的審査
日商LPガス(株)	LPG、LNG等の販売
(株)エネアーク (株)エネアーク関西 (株)エネアーク中部	LPG・ガス機器・電気の販売
(株)エネアーク関東	LPG、電気、都市ガス、ガス機器の販売
(株)CDエナジーダイレクト	エネルギー供給事業
グローバルベイス(株) グローバルベイスマイリノ(株)	中古マンションの買取・ リノベーション・販売
芦屋浜エネルギーサービス(株)	芦屋浜シーサイドタウンにおける 熱供給事業
六甲アイランドエネルギーサービス(株)	六甲アイランドにおける熱供給事業
大阪臨海熱供給(株)	大阪此花・大阪南港コスモスクエア・ 三宮駅南地域における熱供給事業
エネテック京都(株)	エネルギー設備機器(主に空調機器) の設計・施工・販売
(株)エネテック大阪	エネルギー設備機器(主に空調機器) の設計・施工・販売・メンテナンス
大阪スクールアムニティサービス(株)	大阪府立高校に対する空調サービスの提供
名張近鉄ガス(株) 豊岡エネルギー(株) 新宮ガス(株)	ガスの製造・供給・販売、 電気の販売
びわ湖ブルーエナジー(株)	ガス販売・電力代理販売、 都市ガス・LPG・水道の保安
(株)四国セントラルエナジー	ガスの製造・供給・販売
(株)ソパーニ	高齢者向け福祉医療型緊急通報・ 健康相談サービス、家電ガス機器 デリバリー、住宅リフォーム
エナジーバンクジャパン(株)	エネルギー推進事業モデルの企画・開発、 コンサルティング

グループ本社関係会社

事業創造本部

(株)KRI	先端技術に関する受託研究・ コンサルティング、分析・試験評価業務
エス・イー・アイ(株)	蓄電池の試作実証、開発の受託

経営企画本部

オージーかんでん共同企画(株)	受託調査業務
(株)オージーキャピタル	資産管理
大阪ガスオートサービス(株)	自動車のリース、整備、安心運転教育
大阪ガスビジネスクリエイト(株)	アウトソーシングサービス、駐車場運営、 情報通信事業、イベント・施設の運営
(株)アクティブライフ	有料老人ホームの経営・運営受託、 在宅介護サービス

ネットワーク会社グループ関係会社

ネットワーク会社グループ

大阪ガスネットワーク(株)	一般ガス導管事業等
大阪ガス・カスタマーリレーションズ(株)	ガス・電気・熱供給事業の検針・料金回収、 ガス設備・機器等の検査・保守点検業務、 ガス・電気料金や契約に関するバック オフィス業務

中核会社グループ関係会社

大阪ガス都市開発グループ

大阪ガス都市開発(株)	不動産の開発・賃貸・管理
(株)大阪ガスファシリティーズ	建物および設備の運転・管理・ メンテナンス
京都リサーチパーク(株)	京都リサーチパークの運営・管理
プライムエステート(株)	不動産の開発・賃貸・管理・仲介
大阪ガス都市開発アセットマネジメント(株)	私募REITのアセットマネジメント業務等
(株)阪和総合防災	消防施設並びに空調および給排水 設備の設計・施工・メンテナンス

オージス総研グループ

(株)オージス総研	ソフトウェア開発、情報処理サービス
OGIS International, Inc.	米国におけるIT技術等に関する 調査、情報収集
さくら情報システム(株)	ソフトウェア開発
エスアイエス・テクノサービス(株)	情報処理サービス
(株)JOE	給与計算、人事サービスの受託
SAKURA SYSTEM SERVICE PTE. LTD.	ソフトウェア開発
(株)宇部情報システム	ソフトウェア開発、情報処理サービス
(株)システムアンサー	ソフトウェア開発
(株)アグニコンサルティング	コンサルティング、ソフトウェア開発
(株)アミック	ソフトウェア開発
AMMIC Philippines, Inc. 上海埃米柯信息系統有限公司 OGIS Philippines, Inc. OGIS-RI Singapore Pte. Ltd.	

大阪ガスケミカルグループ

大阪ガスケミカル(株)	精密化学品・光学樹脂、炭素繊維 加工品、活性炭、木材保存剤・抗微 生物添加剤等の製造・販売
ミナベ化工(株)	活性炭の製造・販売
Davao Central Chemical Corporation	
大阪燃気化学(上海)有限公司	炭素材料・光学樹脂等の輸出入・販売
Jacobi Carbons AB	活性炭等の製造・販売
水澤化学工業(株)	無機吸着材・樹脂添加剤の製造・販売
台湾大阪瓦斯化学股份有限公司	光学樹脂等の輸入・販売
(株)アドール	活性炭素繊維の製造・販売
JOカーボン(株)	等方性ピッチの製造・販売
(株)フルファイン	精密化学品等の製造・販売

お問い合わせ先は大阪ガス
ウェブサイトをご覧ください。

Daigasグループ会社

検索

Daigasグループのコミュニケーションワード

ぐっとそばで、
ぐぐっとミライ。

私たちDaigasグループは、持続可能な社会を実現するために進化を続けます。

一人ひとりに寄り添い、誠実に。

あらゆる技術やサービスを通じて、革新的に。

これまで以上にぐっとあなたのそばで、暮らしが、ビジネスが、
素敵なミライに

ぐぐっと近づくお手伝いをしていきます。

グループブランド「Daigasグループ」について

「Daigasグループ」のコンセプトについて

コンセプトは、「革新を、誠実に。」です。これは、これまでグループ企業理念を実現するために大切にしてきた3つのマインド「進取の気性」「お客さま起点」「誠心誠意・使命感」を言い換えたものです。

Dynamic Triangleについて

ロゴの中にある三色の三角形を「Dynamic Triangle」と名付けました。それぞれの三角形は、3つのマインドと、進化するグループの3事業領域を表現しています。

グループマインド：「お客さま起点」
事業領域：ライフ&ビジネス ソリューション事業

グループマインド：
「誠心誠意・使命感」
事業領域：
国内エネルギー事業

グループマインド：
「進取の気性」
事業領域：
海外エネルギー事業

レポート

統合報告書

[日本語](#) [英語](#)

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さま向けに、財務・非財務情報を含む企業活動を報告するレポートです。

<https://www.daigasgroup.com/ir/library/ar/>

ファクトブック

[日本語](#) [英語](#)

株主・投資家の皆さま向けに、投資分析などに必要な情報をまとめたレポートです。

<https://www.daigasgroup.com/ir/library/factbook/>

ソーシャルメディア公式アカウント

Daigasグループ【公式】

YouTube

Daigasグループの取り組みやCM動画、商品・サービス紹介、防災情報などをお届けします。

<https://www.youtube.com/DaigasGroup>

Daigasグループ社会貢献活動

Facebook

Daigasグループの各種社会貢献活動を紹介しています。

<https://www.facebook.com/osakagas.social.contribution/>

Daigasグループ通信

Facebook、X(旧Twitter)、Instagram

Daigasグループのトピックスやとっておき情報をお届けします。

Facebook <https://www.facebook.com/DaigasGroup/>
X(旧Twitter) <https://twitter.com/DaigasGroup>
Instagram <https://www.instagram.com/daigasgroup/>

Daigas Group Sports 公式

X(旧Twitter)

Daigasグループのスポーツに関する様々な情報を発信します。

<https://twitter.com/DaigasSports>



大阪ガス株式会社 広報部

〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2
<https://www.daigasgroup.com/>



CUDマークはNPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により、認証された印刷物、製品等に表示できるマークです。